

地名記 古今集以後

拾壹

二九八二番

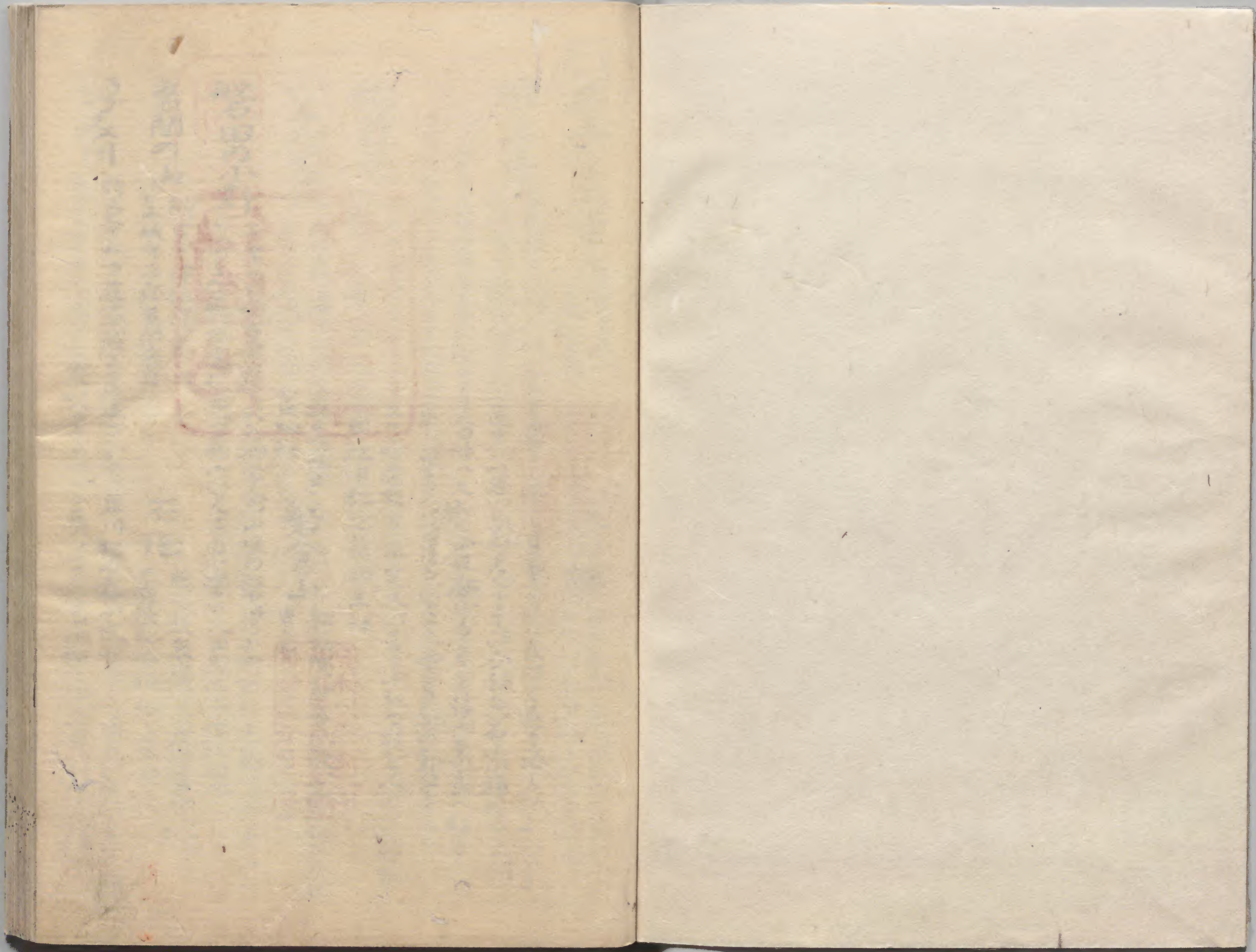
			一六五九五	和書門
		二四四	函	
一四	冊	架		
一一	冊			

庫	文	閣	内	
五	一	三	五	和
一	一	五	九	書
四	冊	五	五	類
架		冊		

内閣文庫	
番號	和 16595
冊數	11 (11)
函號	176 152



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
裏面記載のない箇所は省略
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり





伊勢國射和文庫
竹川彦三郎政勝
納本一萬卷之内

い石上ふるの平乃

古今要記 大和道郡 御民言草

板田橋

十載教の板田誤坂田のさの於小出
明台十二年購求
大和高市郡小壜田の坂田

石上寺

後撰雜三小野小壜石上寺
て寺小壜昭侍と人の造りおのいんんとしていける石上旗門をすれハ
いんんをの衣とふまかきんん始大和の山辺郡ふをんを後小奈良へ移す

稲荷山

六帖山稲荷山杉のむら立。拾遺雜在平定文いなり山社の教を人じり難面入
とみつと書へん。式山城国紀伊郡稲荷神三社

いたたの森

六帖森山城の石田の森は鳴呼子
新勅賀部屏風歌。山城乙訓郡西
岩倉。也江石座同名

磐田の小野

方兼九。新古今雜中式部卿字合山城の磐田の小野の柞系見つや君う山乃
こゆん。新於送秋下山城のいんんの小野。久世郡石田神社同地

岩間山

續古今神祇部
山城宇治郡岩間寺存
石陰
新千載哀傷。一条院御葬地。山城愛宕
。廟後紀石陰。松ヶ崎。與

いづみ川

新古今秋下定家時。くぬ浪さへ色小泉川柞の森小穴吹ら。同。一。中納言兼肺。
みくふとさく流る。泉川いつとさく。あ。らん。山城相承郡泉里。神紀。く川。

いさめの里

六帖一初秋、才二里、在はのいさめの里の
油秋の、也江居醒泉と相換高倉郡伊冬

石根山

新于齊賀於、天仁元、大嘗會
也江国岩根山、神、南妹、口、秋、丑、寅

市志の系

六帖系、上野や、の系、の、い、り、さ、く、
未考、今、上、野、の、系、の、い、り、さ、く、

いさかの沼

古今長、
式、上、野、国、群、馬、郡、伊、加、保、神、社、池、林、

伊吹のさしも草

後、於、送、意、一、實、方、相、長、か、く、と、た、ふ、え、や、い、ま、さ、の、さ、し、も、草、さ、し、も、志、と、な、も、ゆ、思、を
○六帖、雜、中、さ、し、も、草、下、野、や、あ、ら、う、系、の、さ、し、も、草、あ、ら、う、思、ひ、ふ、さ、や、く、ら、ん
○唐、少、納、去、下、つ、け、ら、る、人、ふ、思、ひ、ふ、か、ら、ら、ぬ、あ、さ、し、も、草、誰、り、い、ま、さ、れ、里、つ、け、し、を、古、人
ハ、下、中、ふ、い、ふ、さ、し、も、草、梅、小、近、に、伊、吹、山、の、式、坂、田、郡、伊、夫、伎、神、社、同、名

稲羽の山

○倭、各、国、幡、国、法、美、郡、稲、羽、波、
○後、撰、秋、中、の、八、雲、云、但、馬、出、石、郡

いさかの山

催、馬、赤、伊、止、安、礼、止、伊、留、左、乃、也、未
○後、撰、秋、中、の、八、雲、云、但、馬、出、石、郡

出羽のさしもの関の清田川

六帖、国、河、を、い、さ、か、の、山、を、未、詳、○出、羽、国、最、上、郡、清、川、地、を、関、也、け、所
○未、考、

いや高山

○或、云、江、坂、田、郡、弥、高、山、○金、葉、冬、終、大、嘗、會、
備、中、国、弥、高、山
○或、云、備、中、国、岩、屋、山
○新、秋、下、定、守、の、式、丹、波、天、田、郡、生、野、神、社

いづ幡

後、撰、別、部、越、の、志、ま、る、人、ふ、家、を、の、思、ひ、つ、る、あ、ら、う、な、ふ、海、の、山、ま、さ、い、さ、し、ま、し、
返、を、君、を、あ、い、つ、を、と、思、ひ、つ、る、あ、ら、う、な、ふ、海、の、山、ま、さ、い、さ、し、ま、し、
ん、世、も、越、海、の、海、の、山、い、つ、を、と、思、ひ、つ、る、あ、ら、う、な、ふ、海、の、山、ま、さ、い、さ、し、ま、し、

五幡神社。海山同郡。

入乃川

万葉七十七紀、伊、加、保、神、社、次、の、万、四、十、二、詠、
多、胡、能、伊、利、野、者、上、野、国、也、未、考、

岩屋山

新、秋、賀、於、負、應、元、年、主、基、風、俗、が、
○或、云、備、中、国、岩、屋、山

入野

子、我、春、下、乃、を、も、入、野、の、系、の、つ、ま、ま、る、○玉、葉、秋、上、月、け、の、い、る、池、の、底、か、の、く、と、山、の、と、な、り、て、
明、る、志、の、れ、め、の、後、後、於、送、秋、上、後、成、さ、と、麻、の、入、野、の、底、○新、秋、古、今、雜、上、葛、の、葉、と、吹、
々、風、ふ、う、ふ、り、て、田、子、の、入、野、の、い、る、池、の、底、か、の、く、と、山、の、と、な、り、て、
○或、云、播、磨、郡、入、野、未、考、所、不、定、

印南野の野中の水

新、後、於、送、冬、源、義、將、氷、と、を、り、り、く、ま、ぬ、印、南、野、の、野、中、の、水、を、
埋、む、白、雪、○播、磨、凡、土、記、秋、原、里、針、尾、井、今、印、南、郡、井、口、村、存、

稲井の里

金、葉、賀、部、高、階、明、頼、後、冷、泉、院、御、時、大、嘗、會、備、中、国、稲、井、里、と、
苗、代、の、水、の、稲、井、小、ま、く、せ、り、民、や、と、け、を、る、君、の、代、り、也、

揖保の湊

新、續、古、今、冬、終、大、江、嘉、言、い、か、の、湊、ま、て、
チ、多、の、鳴、と、て、夜、に、夜、に、受、て、き、け、播、磨、縣、
い、か、の、湊、チ、多、の、鳴、と、て、夜、に、夜、に、受、て、き、け、播、磨、縣、
○紀、伊、国、牟、婁、郡、那、志、の、海、嶋、衣、奈、村、

妹の鴻形尺の浦

万、葉、七、紀、伊、加、の、新、
新、於、後、倉、石、大、臣、

妹婿の山

古今志五流てハ妹婿の山の中よかつる吉せの川のすや世中〇万葉ニハ妹婿の山小直小向へる妹の山ミミ〇万葉七卷木道尔社妹山在と云ト〇同十九卷の川の辺乃妹与背之山〇今紀伊小伊都郡背山村を妹山未考〇新千載哀傷清浦朝臣妹背川〇玉葉雜二いもせ川昔まろの中まろハ人の行きのかげハ足てまろ先〇古今集いもせの山の中まろと流るよ依て一ハハ轉ていもせ川と云る

磐田川

續拾遺神祇花山院御製欽徳神宗満のひる時磐田川にて岩田川流るん源けしハ神もあられと云ハさうや〇玉葉雜一西行法師徳神入ありまろ磐田と云新まで松のぬのいもせ岸の夕涼も君うあれちとちもあられ〇徳神流の磐田紀伊国那賀郡磐田郷を紀の川と船渡りす今〇岩田庄岩田村岩田川と云

磐城山

万葉十二卷磐城山直越来ませ磯城のこぬみの傍小水まろん〇新後古今権記家説詠まつ心岩城の山と越して人もこぬこの傍ふもぬん〇常陸国鹿嶋郡小磯崎こし和田あり磐城山未考

磐せの志

新勅春下田原天皇神代のいもせの志の磐公まろの是まいつり
きまろん〇万葉八卷志貴皇子の筑前行宮岩瀬のちろの是ハ大和添上郡志良坂上

いせ山

新古今志二かくとた小思をいせ山下の水の草陽川〇磐津志筑前又陸奥小岩背郡志未考

いけ

土佐日記正月七日土佐国安藝郡〇いけの地名未考

生の松系

於遠別於筑紫へ送りたる人小昔んいこの松系ことと云ハ志れぬ人ももと云よ〇後於遠別於いきの松系〇新勅権記於浦宇佐使の錢小生の松系と流り〇雄略紀生嶋〇筑前小博多の所也今も
生の松系と云動る

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '生' and '松']

は

泊瀬川ふる川の

古今雜下旋頭次、後人石知泊瀬川ふる川の邊に二もとを移年とて

布敷の川と二所の流れと云。沙瀬の移ハもとより、布敷も移ハんとして、新秋下、布敷の

神杉と移り、沙瀬と移ると二方小杉木を移して又もおんんと云り、沙瀬川とふる川と

初瀬山尾上

初瀬山尾上、新古今三定家、年々神宮祈子繁り、いづせ山をのの神のよその夕暮

せの山、ふる川と云

花垣の里

新古今三定家、天納言俊光、永仁六年大嘗會、悠紀方、序風小、花垣里、白西のゆふ

花の山

花の山、古今春下、志賀より海なる女侍の花の山に入り、拾遺雜春、遍昭の増去、花の山小亭子

柞の森

柞の森、六帖二森、山城の磐田の柞系、後於送秋下、後於送秋下、後於送秋下、後於送秋下

崇神紀羽振苑、今祝園村存

七な田

七な田、河内石川郡塩田に神、七な田に誤

七つ山

七つ山、新古今雜上、中納言匡房、後醍醐天皇、津国とつくと云ふ、信々、秋とつとつと

浪名の橋

浪名の橋、六帖橋、於送別、於送別、於送別、於送別、於送別、於送別、於送別、於送別

四年修造、歴二十四年、既以破壊の橋二所、引佐細江一所、浪名郡橋本村一所、今遠は今海

箱根山

箱根山、六帖山、〇万葉七十五足柄乃箱根、〇日本後記五

七ぬ

七ぬ、土佐日記正月十一日、〇七ぬ、土佐小安、後記

波良の池

波良の池、瓜俗、瓜、半之、多加倍、加毛、佐信、木、為、流

笹の浦

笹の浦、土佐日記二月朔日、玉とけと、この浦、波立

〇駿河小富士山下の沼を東の池と云

初瀬

初瀬、六帖橋、紀の志、今ももて、浦の、つと

七がりの関

七がりの関、後於送序、同色二、同雜上、安方

〇新古今三定家、紀の海や沖つ浪るの雲、雪の浦、加能と送道の、の、鳴

橘 彦余謝の吹井の湊千鳥

後古今冬於衣蓋内大臣の母後凡土記余謝郡天橋之吹井ハ水の江の吉野宮也也。和泉吹井紀伊の吹井 同名

ちくまの国

伯 後於遠雅一馬内侍伯使ら侍けるちくまの国も侍らさるらん。ゆふごとくあふもあふもちくまの国と申すは此也。

春の湊

新古今春下寂蓮法師著して春の湊ハ志々也。新古今春下寂蓮法師著して春の湊ハ志々也。新古今春下寂蓮法師著して春の湊ハ志々也。

○備前記云備前国御野郡墨山也御野川の流兒嶋の内海ハ入所と春の湊 春の泊と云神功傍政の元年春二月御船ハ内海ハ潮引て新整田とて今湊村と云と云。○案ハ是風土記の信也。兒嶋の内海ハ潮引て新整田とて今湊村と云と云。小波の泊とも云。越戸の湊ハ春の湊の行末や越戸の湊なりと云。

箱崎

於送神糸重之。新古今於送神糸重之。新古今於送神糸重之。新古今於送神糸重之。

速日の峯

○案ハ古事記上肥国謂速日別。然成肥国天降ハ物ノ足ハ皇孫天降ハ日向国 襲之高千穂峯と云。地理違如くされとも高千穂高千穂峯ハ今人オホ山と云て山火も此ハ速日の峯とも云えり。又按小龍之高千穂ハ吾嶋山小嶋と云も押計のふん薩人ハ大隅国 肝屬内浦郷北方高屋山ハ天孫出生の地と云信。高千穂山ハ此と云。

に

西川

古今雜上法皇小川ハおもやります。山城大堰川行幸延喜七年九月十日

新居郷

新千載志ニ斐武人ハ大嘗會也。江国新居郷ハ倭名淺井郡新居郷也。

丹生川

新千載志ニ斐武人の真木流す。小川ハ言ハかよと船を通りぬ。

小川の海

千載志四。赤袖の泪や小川の海たり。んがもものえもめをくれえ。

二万の里

○按斐武人中小丹生川ハ越前丹生川と云。金策賀於後冷泉院の時大嘗會 主基備中国二万里と云。真物

○古昔ハ高嶋の水穂崎各高。新勅春上ハ倭名道江野例郡迹保郷ハ此所 也。迹保の湖と云。後世ハ湖水の惣名の如くなり。

○備中風土記。皇極天皇六年大唐將軍蘇定方率新羅軍伐百濟百濟遣使凡 救。天皇行幸筑紫將出救兵時天智天皇爲皇太子攝政。從行路宿下道郡見。

一郷。戸邑甚盛。天下詔試。徵此郷軍士。即得勝兵二萬人。天皇大悅。各此邑 曰。二萬郷。後改曰迹磨。其後天皇崩筑紫行宮。終不遺此軍。倭名備中国 下道郡迹磨。或云當板倉宿也。凡土記二萬郷名疑。

ほ

堀江之棚なり小舟

古今悉四。難波堀江は、橋はと河舟のるへ今、田となる

堀川

古今賀知。堀川のおみち

堀がの井

六伯井。武蔵なる堀がの井の水を汲も思心を引ふたとへん。千載新教。後成。武蔵の堀がの井もみちをうけりともちの邊附より。或云入る堀がの井

未考

穂巻野

續古今秋下。文永二年九月十三夜。野鹿。夜をなるとやの露の秋風ふそよ。さきと麻を煮とふらん。玉葉雜一尾花ふく穂巻のめぐりの一村小志ん。里ある秋のみさ山。袖中抄。信濃なる穂巻の露も風ふけたとてさきと麻を煮。○春あか。新てりす穂巻の露のみさ山。小穂集や出るとるらん。宗良親玉が。信濃なるやの露もおとひきね。穂巻の露も分る諸人。穂巻、信濃。信濃。神社の。る穂の小屋。後世地名となりて。海濱郡。御所山の東八ヶ嶽の麓の系を穂巻野と云。又松本の東。水神の系も保巻也と云。又小縣郡。堀田もやの地名と云。き。る穂の。穂巻の備をふらん

廿賀知。文保二全の川

と

飛火野

古今春上。古昔の飛火の野。○依日五。和銅五年正月。春日。注。春日。又飛火の野。平群郡。生駒山なり

豊浦寺

續日廿一。光仁天皇。宝龜元年十月。童歌。葛城寺。乃前在。豊浦寺。乃西在。○催馬示同。續千載。雜上。ふりふける。乃とも。又。葛城や豊浦の寺の雪の。明の。大和高市郡。豊浦里。乃後。古良都。乃移して。茶師寺と云る

富の緒川

於送哀傷。いかに。富の緒川。乃大王のみ名を。古。大和。片。山。の。亂。人の。か。と。出。所。疑。一。政。事。要。畧。六。十一。出。の。い。の。富。片。置。大。和。平。群。郡。の。新。千。載。賀。知。尾。山。院。御。製。歌。嘉。元。百。首。中。絶。せ。り。乃。後。の。送。哀。傷。の。未。遠。く。富。の。小。川。の。流。あ。ま。ふ。富。緒。川。未。考

常磐石の山

古今秋下。山城。葛野。郡。○古。今。秋。下。の。山。城。葛。野。郡。○古。今。秋。下。の。山。城。葛。野。郡。○古。今。秋。下。の。山。城。葛。野。郡。

とも岡

神樂。取。物。笠。の。山。城。訓。郡。大。原。野。の。南。鞆。岡。

多戸山

於送哀傷。信。各。山。城。國。愛。宕。郡。鳥。戸。止。利。信。

ともらのや

續千載。賀知。の。十。市。大。和。の。万。葉。七。世。越。の。後。大。越。智。是。

等。大。和。高。市。郡。の。万。葉。十。三。世。息。長。の。遠。智。の。小。管。と。ら。や。等。八。邊。は。坂。田。郡。

等里乃平世 万葉十四十九
未考

東北院 續後撰雜上。紫式。天。堀。東北院の渡敷。
山城葛野京。一。奈。京。極。東。

とたせの流 金葉秋終。大堀川。ち。も。み。し。を。ふ。埋。り。て。と。た。せ。の。流。ハ。高。の。こ。そ。す。る。新。勅。聖。於。兼。應。三。年。大。堀。川。行。幸。の。日。大。宮。右。大。臣。大。井。川。古。き。み。行。の。流。よ。し。

とたせの水もふとすをける。新勅。三。年。と。た。せ。川。の。山。城。葛。野。郡。

多羽田の里 母。花。秋。終。兼。好。忠。山。城。の。と。た。せ。の。水。を。見。せ。は。お。け。さ。を。結。風。吹。の。後。後。於。遠。秋。下。傷。各。山。城。紀。伊。郡。鳥。羽。渡。の。古。今。西。四。津。の。水。の。た。ふ。は。か。ん。ず。山。城。の。と。は。よ。あ。ひ。見。ん。よ。の。こ。と。を。遠。秋。天。皇。弘。仁。十。三。年。十。月。幸。河。陽。宮。傷。各。以。河。陽。離。宮。為。国。府。飛。幡。之。浦。筑。前。之。

遠里小野 新勅。春。上。の。万。葉。七。指。津。住。吉。の。遠。里。小。野。

等根川 神。示。の。新。勅。神。祇。取。物。諸。説。上。野。国。等。根。川。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

新。於。遠。難。中。志。説。の。と。つ。た。の。橋。の。く。も。思。ひ。あ。こ。や。世。を。返。ら。ん。新。後。於。遠。難。上。ま。う。六。十。經。の。橋。ふ。り。つ。ま。の。こ。う。き。世。も。程。や。後。ら。ん。新。後。古。今。志。五。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。兼。名。藁。繩。新。吉。今。於。於。抄。の。仲。陸。奥。は。傳。る。流。え。ん。も。こ。の。浦。風。も。せ。ぬ。小。難。を。す。め。秋。の。夜。の。月。傷。各。陸。奥。国。府。在。宮。城。郡。今。云。利。府。也。鎮。守。府。陸。奥。郡。ま。さ。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

とつたの橋 千。載。志。三。陸。奥。の。と。つ。た。の。橋。よ。く。も。つ。た。の。後。も。人。ふ。い。は。ふ。か。ま。

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

ち 智多の村

新送賀の時に居てちたの村人多し夜
おれせをの早苗たるらん尾張知多郡

ちの塩竈

六帖塩竈。ち思ふんも去る降兵
のちの塩竈辺に竹の宮城郡

千枝の村

後古今神祇正三位家御負親元年
千枝の村に玉葉聖於永仁六年大嘗會
悠紀方邊に国千枝村 **未考**

ちくふ嶋

拾送秋於竹生嶋
江邊井郡式都久夫須麻神社

ちの松原

新後拾送賀於永和元年大嘗會悠紀
方千松原。或云江上郡 **未考**

千とせ山

千我神祇元暦元年大嘗會母後国
千山。於送神示能宣朝臣天

ちさかの浦

千我賀於平治元年大嘗會凡俗
邊江国ちさかの浦君代の粉ふハ

源元年大嘗會。今年より千年の山産
す君の代とていひのちの山産

未考

淡丹波国急山の系桑田郡老ヶ坂越と云

千里の湊

伊勢物語紀伊国らとりの湊

大後云。徳元路の千里の湊。日本史六十七後醍醐天皇上
元弘元年七月三日地震。紀伊千里濱地出二十餘町。千里濱。在日高郡

り 新門の湊

古今雜上
大和吉野郡川上

ぬ 布引の湊

古今雜下。新湊古今雜下。はつあ
生田の川の水上。今こをえん布引の

ぬき川

催馬示蓮田曲。新千我賀於正治
二年百中。山ら田のいつぬき川

野嶋

万葉六。淡路のぬま。千我振於倭成
浪もけさる。土佐日記。淡路の穴河の湊

越前国又々村をクミ約リキ
徳名美濃国席田郡。貫川 **未考**の川上

野嶋を。千我の次野嶋。指はる。属の
高神ふと云神。指はる兵庫の神の浦と云

今。野嶋と云新。淡路の南の野嶋ハ古
書小見所見。又。千我雜下旋
頭。野嶋。あつまの野嶋。海風

席田

を 小笠田の板田の橋

万葉十一廿七〇千載新教〇玉兼雜二をえりたる板田〇〇万葉の卯ハ
を板田の橋〇大和高市郡式治田神社〇坂田推古紀用明紀坂田尾寺と出
風雅雜上法親王覺助大峯修行の時。うきをまき雲吹拂山風と小笠田の橋をさるものえけさ
〇大和吉野郡大峯與小笠山

小笠山

古今秋下。大堰川行幸の文。拾遺秋於。自信公。小笠山峯のもみちをめぐりて。小笠山の
春の月と。住うきふ。あふ。小笠山の峯ありて。兄弟も。夜の月。〇〇六山城。小笠山。昔野郎
法縁天竜寺中の山名小笠山と云。〇又大和国龍田の山中。小笠山峯と云。万葉八九五出

小倉山

古今秋下。大堰川行幸の文。拾遺秋於。自信公。小笠山峯のもみちをめぐりて。小笠山の
〇山城葛野郡

小野

古今秋下。〇式山城愛宕郡小野神社。傍名小野郷。け地惟高親王の官所。小野中。小大系里
〇山城葛野郡

小川の橋

於邊物名業平。と川の。〇新和夏なる小川
〇山城葛野郡

小乃の湊

新千載冬。於いせの湊の。と乃の湊
〇小津の湊と誤り

小山田

六帖関。〇武蔵。小多磨。國府より甲斐國。は通過。武蔵の多磨川の。西小関戸村
小山田村。是甲斐相模國境

とすて山

万葉七。〇淡古。今雜下
〇紀伊國 未考

おろし

〇陸奥。黒川郡。式黒川。沃
〇陸奥。黒川郡。式黒川。沃

小塩井

凡雅中。祇。度會。家行。豊受。太神
〇伊勢。山田。の。官所。小塩井

岡部

新於。送。猿。於。宇都。の。山。乃。の。夜。東。の。名。あ。け。き。さ。の。名。と。か。と。て。是。於。よ。か。る
う。つ。の。山。乃。の。是。於。ハ。離。行。志。該。郡。宇。都。の。山。ハ。有。度。郎。昔。は。同。新。〇。う。つ。の。山。古。道。産

姨捨山

古今雜上。〇。回。名。冠。山。〇。官。位。令。中。義。能。曰
〇。信。濃。更。科。郡

小笠原牧

六帖。引。〇。回。甲。山。小。笠。原。牧
〇。信。濃。伊。奈。郡。高。遠。史。小。笠。原。住

小津の泊

土佐。日記。二。月。五。日。和。泉。の。灘。より。小。津。の。泊。を。過。次。石。津。住。吉。〇。案。小。和。泉。國。塚。宿
南。二。里。大。津。より。南。小。津。の。泊。を。過。次。石。津。住。吉。〇。案。小。和。泉。國。塚。宿

をヲツリタ小坂田の板田の橋

五葉十一廿七〇千載新教の玉兼雜二をえりたる板田一〇万葉の卯ハ
板田は橋の天和高市平式治田神社の坂田推古紀用明紀坂田尾寺と出

小笠山

風雅雜上法親王覺助大峯修行的時うきと云々吹拂山嵐と小笠とあるものすけさ
〇大和吉野郡大峯與小笠山

小倉山

古今秋下の大堰川行幸の文の拾遺秋於負信公小倉山峯のみみらえり
小倉山山新後遠雅春持中納言公雄小倉山の山莊すまふ成よるにたの

春の月を住うきふまるといふ名の宿かりて兄弟も産む去の夜の月〇六山城小笠野郎
法縁天竜寺中の山名小倉山と云〇又大和国龍田の山中小倉山と云万葉八九出

小塩山

古今雜上大塩とよしの山
〇山城し訓郡

男山

古今雜上男山の如神苑
〇山城豊喜郡石清水八幡の山と男山と云

小野

古今秋下の式山城愛宕郡小野神社の傍各小野郷は地惟高親王の官所也小野中小大系里
も小野毛人の墓所也〇式辺江志賀郡小野神社同名小野氏の祖神也

小川の橋

於邊物名葉平と川のそ〇新初〇小川の橋

小野の氷室山

千載春下源仲正
〇山城愛宕郡

是田の系

法後於邊春上惠慶法師邊に在る是田の系小野つひ〇是田後日五和銅四年
山城相承郡岡田沃を伊賀と通〇式辺江志賀郡岡田沃も邊江の是田未考

小乃の湊

新千載冬於いせの湊のそ乃の湊
〇小津の湊と誤

平門久波

東遊曲
〇常陸国筑波

小山田

六帖關〇武志ふ多磨國府より甲斐國は通過武志の多麻川の西小関戸村
小山田村也是甲斐相摸國邊

とすて山

万葉七〇法古今雜下
〇紀伊國未考

平那能平

万葉十四歌〇平那と宇那通用
上縁海上未考

かろみみの橋

古今雜上
〇陸奥黒川郡式黒川沃

と絶の橋

後於邊三左京大夫道雅陸奥の
と田江の橋也是たろんみみま

小塩井

風雅雜上度會家行豊受太神
宮也〇伊勢山田の官所小塩井

〇陸奥小田那の江は流る橋未考

岡部

新於邊於宇都の山乃の改築りる岩あけききの橋と云〇とすて是れよかる
うつの山乃の是れハ離河志法郎宇都山ハ有度耶昔は同所〇うつの山古道は

姨捨山

古今雜上〇曰名冠山の官位令昔義解曰
信濃更科郡信濃國俗夫死以婦為物

小笠原牧

六帖野引〇曰甲斐系小笠原牧
信濃伊豆郡高遠史小山人住

小津の泊

土佐日記二月五日和泉の灘より小津の泊を返宗石津住吉〇案小和泉國塚宿
南二里大津より宗石津と行ゆる所の妹うむと津の浦なる岸の私系

尾

於送難上忠見天唐以時中居凡言妙と尾のたる松の積おをひき浪の声もそ
凡も吹まると橋たふ加古郎も尾上への新古今志二定家年も取祈る契ハ沙眼
山尾上の障のよその多き。○玉景雅二橋系もるる明の月山の中尾上の寺の障の二光
先ハ大和城上郡神保の尾上への新勅秋上るまの尾上ハ大和春日也

雄琴の里

金景賀部松風のと琴の里小通よと治れる代の声ハ史也
○或云備中国の或云近江志賀郡雄琴里未考

男嶋

新於送難於泊りするまう後の浪枕さごとくふ余海の浦凡
○丹後小加佐郡男嶋女嶋を與海の海辺への松嶋の雄嶋陸奥也

檜林のむの下車

新勅志にハ万景也
此名もあらず

あまたの崎

玉景雅二嘉元百首中夕附日和田のみさきを潜船の危帆よりや武庫の浦人
○新於送秋下平経正福永は時りしれ崎は退りしり○檜林ハ八田於郡
兵庫崎と和田の崎と云生田より西と福永
と云又神の浦ハ兵庫の浦と云

渡船大江

後於送難於長羅法師檜津
あま下りる時りしりハや
大江の岸小やとりして雲おはえゆる伊勢
山外ハ檜津八田於郡和田崎と渡船と云也
大江ハ大物浦也

尾

後於送難上りし尾の記
○山城東山又河内也

子すし井

子我難於存官甲斐天仁元年
存官群行の時忘井と云所也
別行都の方の忘井と云いさむすひらん
忘井の水ハ古存官群行のたけ川口園は
多後山を越てとより出今移小伊智志
郡雲津川の上宮吉村を忘井ハ今不詳

この松原

万景六吾乃松原ハ風雅春上
後鳥羽院所製衣この松原ハ
伊勢国河曲郡神辺宿邊今若松村存

若松の森

子我難於久壽二年大嘗會悠紀
方凡俗も近江若松森未考

子すし山の山

六帖山陸奥のあ福ま川のあまの山
人子すし山の山いさむす

か 春日野の飛火

古今春上の大和添上郡飛火
○生駒山よりの焔日時山

神なびの山

古今秋下の大和城上郡三諸山
雷岳同地○子我神祇母波国

春日山

新勅春上

神なびの山

古今秋下の大和高市郡又
神なび山同名

比岡の朝アミタの系

古今春上の百重九野龍田山之
流上ハ大和葛下と平群郡中之
○百重三野流上淡野ハ淡路国津名郡なり
大和同各異所○續後撰春中比岡の朝の系
云々ハ大和

比岡の系

新勅秋下
大和葛下郡比岡神社

かたみの池

新勅春下○百重十六勝間田之池
の輪○大和添下郡

かひるふの野

續千載雜上上御門院○新拾遺復於雪かひるふ日ハかひるふの野ハかひるふの野と云又誤てかひるふの野と云○新續古今秋上○かひるふの野ハかひるふの野と云又誤てかひるふの野と云○かひるふの野ハかひるふの野と云又誤てかひるふの野と云
○土佐日記二月十六日桂川月の赤き夜
小波るとり

葛城山

古今大和所○催馬赤呂○六帖五上雜思
かつらきやさる○大和葛城

鴨の社

古今春上○伊物賀茂の川辺六余り
○大山城愛宿郡日社相示郡岡田鴨社

桂の宮

古今物名○山城六余洞院西一丁
○桂の里ハ異ニ

桂の里

六帖里○大堰川父月の桂春の梅津
○大山城葛野郡葛野坐月讀神社

賀茂祭の名

古今東冬冬の賀茂祭の名
○東遊曲知波也不留可
毛乃也志呂乃比女巳未川云々○山城
愛宿郡○續於送雜春賀茂の川凡

亀の尾の山

古今賀茂○山城葛野郡大堰川
○山城宇治郡醍醐の東

かみや川

古今物名○山城葛野郡
今云かひ川

笠取山

古今秋下○六帖山詠山林の笠取山
○山城宇治郡醍醐の東

笠城の岩屋

子我雜下物名
○山城相示郡賀茂郷笠城

河陽の院

後於送秋上河陽の院ハ遊ふ○伊物かやの子○倭名鈔云
源唱朝臣爲方之時以河陽離宮爲国府○山城鳥羽

河原の院

後於送秋上○古今哀傷河原左大臣の身まうてハ云々
相統○山城六余防門南昔時融公の旧宅今坂手所と云ハ別

柏木の事

六帖六上下草○於送雜系人ハ柏木の事
○須古冬土中門院○新古今冬時ハ柏木の事
なすぬ杜の柏木○新古今冬馬内侍○郭公多志ハ柏木の事
きこえけるハ○案非地名

文野 古今物名の海記冬記。嘉祥末の
み野の稻衣。○河内文野郡牧方

文野の美野 新勅新教。伊物。依後推
神。天の川宿と云ふも神のしりか。やの神

禁野。天の川渚の院併。昔時惟高親王の
山狩場

川口関 六帖関。川口の関のあら垣。催馬赤
○伊勢志志郡河内頓宮と云ふ

官と云ふ。今関村にて日本村と通

神沼山 千載神祇。伊勢。小太神官の山を
神沼山と云ふ。○新勅神祇。延喜

川八十瀬。白根。分る。神沼の山のまを
ス。○伊勢度會。内宮の山

笠の人の鳩 新後撰秋上。土御門院。○万葉
三坑。四極山。笠縫之鳩

○松羅波の住吉也。今鳩。千載。はけり

かけ鳩 千載。下。神。依後。推。知。神。の。元
い。て。も。か。を。の。原。も。さ。こ。こ。ハ

○万葉十四。あらかまのかけの。倭。○万葉
十。は。あ。か。の。の。を。かけ。山。ハ。相。接。ス

未考

鏡山 古今大分所
○河内蒲生郡鏡谷。○山城。諸國同名

龜山 後於送賀。後冷泉院。西時大嘗會
○河内。龜山。○松。江。誤。伊。丹。の。龜。山

梶嶋 万葉八十六
未考

かた志き山 六帖国。河内のや片志山の
志き。ふ。ち。の。山。と。云。ふ。を

○河内志幾郡

龜井 新古今新教。上東門院。天王寺の
龜井の水を。○新後推

新教。天王寺。○以上。松。津。国。天王寺の龜井也。○新後
於送雜。あつたの龜井寺。尾。出。熱。田。之

苧ふの系 新勅秋上。松。麻のかりふの系。○愛
負。元。年。○新。原。河。内。神。社。ハ。遠。江

○山。香。部。晴。原。村。之。式。部。系。河。内。神。社。と
改。さ。苧。ふ。の。系。を。さ。す。ハ

甲斐うね 古今。東。名。○凡。俗。を。曲。○甲斐。國。の
山。之。東。海。た。ま。の。白。根。駒

ハ。八。ヶ。嶽。と。り

甲斐の白根 新千載。松。の。白。根。を。よ。そ。よ。そ。と。て。送。る
越。さ。さ。の。甲。山。○白。根。巨。磨。郡。○さ。の

中山。遠。江。美。原。郡

栗の関 新於送雜。上。い。ろ。ふ。名。と。の。と。い
め。て。栗。の。の。栗。の。栗。も。を。そ。そ。る

ゆる。○或。云。武。藏。豊。嶋。郡。霞。関。古。原。在。系

栗の浦 新後撰。一。須。德。院。東。なる。栗
の。浦。○常。陸。鹿。嶋。郡。栗。浦

辛滝 古今物名。○續。於。送。冬。記。さ。る。松。志。賀。の
から。松。氷。夜。ハ。松。より。か。の。浦。ハ。ま。し

○同。雜。上。○松。志。賀。も。昔。ハ。遠。く。成。より。り
共。ハ。先。木。の。事。後。の。松。○河。内。志。賀。郡

笠田浦 後於送。三。○後。後。於。送。○新。於。送。三
二。○河。内。志。賀。郡。笠。田。の。浮。橋。存

からやの系 万葉七、高尾の三尾の勝野。統後撰振旅。家隆、高尾のからやの系。
○新勅振旅。口近江高嶋郡

かたなまつくまの山 六帖山かまをるつくまの山のつくくともひまひつらよををつまかま
○信名能登国能登郡加嶋加之 今号神嶋。○万葉十六廿九かまぬ

の札の嶋。又振込江小筑戸郷と神嶋と云の号

神田の里 子載賀。白河洗の山時兼保元年大嘗会。主基方稻舂。神田郷と
○信名丹波国多紀郡神田郷。○式社同

かざ越山 酒花雅下。系系経信濃守。まてりらる。時風越の峯。まてりらる。○子載同出
○夫木。源。源。仲。も。つ。も。結。ひ。て。ゆ。ん。風。越。の。末。也。の。尾。花。越。よ。出。ま。り

○新於送雅上。系系。重。風。越。の。峯。の。ふ。あ。き。も。さ。え。れ。て。も。る。の。出。坂。を。埋。む。白。雪
○信濃記云。伊系郡小沢山。系系。不。城。御。坂。の。北。と

かざ山 古今別。○式。武。馬。越。前。国。敦。賀。郡
鹿。蒜。如。倍

形又の浦 万葉七。紀伊。新。勅。振。旅。冬。於。鎌。倉
右大臣。い。も。り。か。の。の。浦
○紀伊。牟。婁。郡。那。智。の。所

神くら山 古今物名。○備中国。庭。瀬
の。所。史。を。唐。琴。浦。と。云

かまど山 陵式。紀伊。国。名。草。郡。竈。山。陵。五。瀬。命。今。伊。都。郡。高。野。山。下。久。止。山。村。○於。送。雅。於。元。浦
流。紫。へ。返。り。ら。る。時。か。ま。と。山。の。新。勅。不。宿。り。て。侍。ら。る。乃。つ。ら。不。侍。り。ら。る。木。小。古。く。虫
付。て。侍。り。ら。る。春。ハ。も。え。秋。ハ。こ。か。る。か。ま。と。山。と。云。亦。庭。も。亦。方。も。煙。と。を。な。る。元。浦

鹿この崎 土佐日記廿七日。土佐。高。知。辺。今。不。知
○播磨。小。鹿。兒。湊。ハ。異。之
○續於送雅。於。建。久。九。年。大。嘗。會

かす萱の園 新古今。雅。下。系。系。源。太。政。大。臣
道。の。次。か。す。の。園。守。小
の。と。見。え。つ。ら。人。も。い。ら。る。と。あ。ら。る。人。か。り

神嶋の社 備中国。神嶋。有。神。祠。所。神嶋の
波の白。あ。か。け。ま。く。も。か。こ。き。み。代。の。た。り
○或。云。筑。前。小。御。笠。郡。太。宰。府。前。萱。園
○今。見。る。牟。婁。府。の。合。水。城。の。堤。存。の。と

と。と。見。る。○式。備。中。国。小。田。那。神。嶋。神。社。
松。備。中。神。邊。宿。南。三。里。今。云。カ。ウ。嶋。村

かまど山 陵式。紀伊。国。名。草。郡。竈。山。陵。五。瀬。命。今。伊。都。郡。高。野。山。下。久。止。山。村。○於。送。雅。於。元。浦
流。紫。へ。返。り。ら。る。時。か。ま。と。山。の。新。勅。不。宿。り。て。侍。ら。る。乃。つ。ら。不。侍。り。ら。る。木。小。古。く。虫
付。て。侍。り。ら。る。春。ハ。も。え。秋。ハ。こ。か。る。か。ま。と。山。と。云。亦。庭。も。亦。方。も。煙。と。を。な。る。元。浦

よ吉野山

古テ序○於送雜下元浦みたけよ
名ふよーの山と修り○大和国吉野郡

吉野の瀧

古今雜下○大和吉野の川上、夏身々
瀧河内上市国栖等川上よと

良峯

新十載哀傷大納言爲氏、西山の良
峯寺小外祖父蓮生法師の曰はるよ

○姓氏録ニ、良峯氏○山城し訓郡

横川

新勅雜三○新儀古今雜上、後深草院
横川よ行幸○近江志賀郡横川

よるきの敷

六帖下卷、よるきの敷の敷
○式道はよるきの敷與呂伎神社

よごの浦

金葉冬紀、よごの浦風さえて
よごの浦、よごの浦風さえて

餘吾湖○二神山、餘吾の東北、谷小あれと
けふの外ふえん

淀川

古テ物名○志五、山城の淀の着しも○於送
復次忠見淀のりり○新古今冬紀、猶

るり、夏中の真柴折巻、淀の川流の月と
又る武○古事記仁徳段、山り川○新十載
極於赤門院、朝事、淀の流ると行船の
○山城久世郡淀

吉田里

於送神亦、兼事と、名はる吉田の
里、杖をぬぐとも、君く多代

○山城愛宕郡吉田

吹吹の瀧

新後於送雜秋、あつたの毎井寺
吹吹の瀧、あつたの毎井寺

友吹吹の瀧、あつたの毎井寺
益寺の瀧、あつたの毎井寺

與謝の瀧

新後於送雜二○新於送雜中、よごの
瀧、あつたの毎井寺

天の橋立○雄略記丹後与謝郡

た新田川

古テ序○式立田乃立野
○大和乎群郡

向山

古テ孫於菟家、○万葉三長屋王
○大和奈良の山向坂上と云

たつの市

於送為二○風雅雜下、定家、建保
二年、名所百中、出羽のたつ市

名、たつの市やいさ、まゝ、大和言のえ
○大和添上、大守寺江を衣の布と云、未考

紅の森

六帖推思○新古今為三、平定文、ゆを
紅の森のゆふたすき、けつちちく

高雄山

於送雜下○新勅教、○玉葉雜三、
高雄山、清瀧川とをこ、あえて、谷

ゆる松の下道○山城葛野郡清瀧の上、高雄
山、清瀧川とをこ、あえて、谷

田村

古テ雜、田村の帝○文安、天安二年、山城国
葛野郡田村郷、真原、岳陵

高石の山

六帖五上、雜思、志め、かつ、ま、や、る、る、○
新勅於春上、高石の山の白雲、○大和

高圓の尾上の宮

新勅秋上、後人、君右大臣
○大和春日、志貴親王の宮

田中の井戸

催馬示呂、太名加乃井止、尔比加
礼留、太那支川、女川、女安巳女

田中の敷

安巳女、太奈加乃巳安巳女
○古事記上、田中直、○欽明紀

八年六月、大和国高市郡田中行宮、耳梨宮
同地、○玉葉雜三、大納言の家、山さ、の田
中の敷、志め、え、て、り、里、人、津、奈、る、人

橘の小嶋の崎

古今春下、山吹の丸、○新後於送
雜春、神、あ、り、昔、え、て、村、の

山吹の丸、○山城宇治の川、
○橘の崎の宮、大和、さ、多、那、ん

玉水

伊物山城の井ての玉水よよくして。○後古
今名三山城の井ての玉水○綴喜郡玉水郷

玉の井

新後於送難秋式子内親王玉の井の氷の上に
名の人や月を秋の物と云々○玉水竹中玉の井

竹田

後古今及於芥河竹田の早苗やまより
○芥河山城送難より竹田八伏見より

○猪赤駐の福小幡山伏見の竹田淀を羽も
又しりとり竹田里も芥河村も

玉造江

新勅志一○玉造志一○志一志一の玉造
ほよとけりてふあゝの末葉の丸てそ

思ふ○難波の玉造は如下一○仁賢紀に難波の
玉造○播磨国東生郡玉造

たみの乃湯

古今雅上難波の湯はくらあま
衣田義の嶋小田看写りし湯

○新後撰賀於難波縣田義の嶋○玉兼林下寛平の湯名ふ
田義の嶋の湯と名に傳名播津西生郡三野郷田義嶋今云北後

手綱乃湊

百葉九村○手綱の湊の名ネ
未考

高師山

六帖山あつとを遠はるるさ山
さやむのふもゆる思ひ

○遠はる遠名那松平宿西さ山三河坂

田子の浦

古今志一○駿河をる田子の浦浪
○駿河の宿系那以東伊豆の西海

近田子浦と云○式伊豆那賀郡多胡神社
多胡村を○或中田子同名

竹の下道

須於送難秋・豆くらの山の松葉は
行きて一夜宿る竹の下道

○風雅春下足柄の山の山風詠とあて花
のちふ竹の下道○後河不富山下まで
相接心坂竹の下道と云

たりまの浦

後古今志一○光徳朝臣常陸の
たまりまの浦未考

高石の湊

古今雅下○於送難志母之和泉
小侍時・沖つ浪言一の湊○今玉兼

志二○志二志二志二の湊のあはけかけや
神のぬれもとてし○万葉二和泉大鳥郡

○持統紀十一河内大鳥郡高脚海

高瀬の湊

催馬赤曲・薦花言瀬の湊
注河内
○後後撰賀於正治百中源氏光

高瀬川

又云せハ末せき後高瀬川ひとら
よぬぬ五月ぬの流○同是於松川

名系教雅・かりさす言瀬の湊のみるれ揖
元あぬ初ふの言式○播磨石地各う

○式越中不砥波郡高瀬神社・後日廿六も出
今云瀬付高瀬川入る万葉十七四十八雄神川

たか山

玉兼撰於大江頼重・分ゆけと
まの峯遠く言せ山雲林葉の流ふ

あつと○万葉十七四十八越中国砥波郡式高
瀬神社・立山と雄山とも云言山言瀬川日地

太女加波乃波之乃門女名留波名曾乃

竹川之橋之流
催馬赤竹川曲○後後撰難中堀川院神代より
流北流せぬ竹川ふ○後伊勢国多氣郡竹川

けり科宮山立所を○式云河内非
けり科宮山立所を○式云河内非

たらし野の宮

後撰秋中・秋名なたらし野の宮を
あつと・あつと・あつと・あつと

○傷名武藏国都筑郡立野乃多知○六帖約引
たらし野の宮

たけ志ん寺

更耕日記○武名不核見亦
高生多々傷名の初よ見

及るより更耕日記たけ志ん寺の初よ見合

玉江

後撰雜四玉江漕舟、荊小舟。新勅賀於白岩の玉江の戸。於遠延五、三、二、江の玉は。同日五、六のうも、おとみ、まの放火のあくと、や人のあつれも、おのぼり、上中玉は。於遠別於、若系の頼、陸奥守を、下りたる時、武隈の松をとつ、やたさきまん、君、千と、ものけ、おぼれて、後撰雜三、若系もと、り、陸奥守、守、下りたり、か

武隈の松

か、まの松、おぼれて、ゆる、ゆる、若系と、松、つ、を、ゆる、任、を、て、後、又、同一、く、退、り、て、足、の、ほ、桂、一、松、を、又、ゆる、折、付、折、り、や、し、武隈の松、を、三、た、た、り、る、小、の、羽、籠、上、搦、め、仲、陸奥の、任、を、て、ゆ、り、たる、時、武隈の松、の、もと、を、し、あ、つ、て、お、ゆ、り、ぬ、た、け、く、ま、の、松、と、い、ふ、若、系、と、う、魚、の、後、於、遠、別、四、抄、幸、通、陸奥守、た、り、て、武隈の松、の、二、木、を、都、人、い、う、と、い、う、み、き、と、あ、へ、ん、〇、同日、於、他、国、法師、陸奥守、二、度、下、り、て、後、の、度、武隈の

玉川

六帖川、陸奥よる、と、云、る、玉川の、〇、陸奥、仙臺の、東、海、末の、松、山、の、辺、玉川、を、〇、武隈、国、多磨、郡、又、玉川、を、〇、六帖、玉川、よ、り、す、謝、布、さ、る、く、昔、の、人、の、あ、り、き、や、た、を、〇、武隈、多磨、国府の、玉川、今、の、四、谷、宿、北、四、五、里、在、り、〇、東、鏡、小、武隈、小、玉川、と、云、又、紀、伊、不、高野、山、小、玉川、を、〇、凡、雅、雜、中、さ、り、の、真、の、玉川の、水、と、流、り

田子の浦

新勅賀於、五月、五、の、田子の、浦、の、と、ま、を、り、お、ま、を、り、か、る、田子の、浦、波、〇、〇、兼、上、七、越、中国、射、水、郡、の、田、子、嶋、を、け、此、今、新、鑿、田、と、な、り

田上川

續、古、今、冬、於、衣、の、田上川、や、氷、と、み、か、の、山、凡、さ、え、増、る、〇、近、江、栗、本、郡、田上、山、下、洞、花、雜、下、若、系、陸、經、義、作、守、を、下、り、ける、村、田上、と、云、ら、る、也

垂井

〇、信、名、美、作、国、真、嶋、郡、垂、水、大、井、相、併、古、今、序、雜、上、〇、於、送、雜、上、貫、之、高、砂、の、松、も、若、系、と、友、と、見、る、〇、播、磨、加、古、郡、高、砂、

高砂

于、我、冬、於、中、納、言、匡、房、高、砂、の、尾、〇、播、磨、加、古、郡、尾、上、上、の、滝、も、若、系、と、り、曙、か、け、て、ち、ね、や、あ、ら、む、〇、播、磨、国、加、古、郡、尾、上

高倉山

新、續、古、今、賀、於、中、納、言、匡、房、寛、治、元、年、大、嘗、會、悠、紀、方、房、凡、高、野、村、〇、高、倉、山、六、松、山、也、俗、云、下、山

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、〇、詞、花、雜、下、後、冷、泉、御、時、大、嘗、會、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

高倉山

新、勅、賀、於、清、浦、朝、臣、備、中国、高、倉、山、

玉江

後撰推四。玉江藩あり。新加船。新加賀。白岩の玉江の岸。於遠志五。三。江の玉江。同日五。そのも。をみ。まの。放火の。あ。と。や。人の。も。つ。れ。も。あ。る。物。は。上。中。玉。江。

武隈の松

於遠別。於。系。の。頼。陸。奥。守。を。下。り。る。時。武。隈。の。松。を。見。つ。や。た。く。さ。ま。ん。君。の。千。と。も。の。け。は。な。り。て。後。撰。推。三。系。も。と。り。後。撰。陸。奥。守。を。下。り。る。時。

か。ま。の。松。の。枯。て。は。る。を。と。り。若。木。を。植。つ。を。は。り。て。任。を。て。後。又。同。一。も。不。退。り。て。之。の。は。ま。植。し。松。を。又。は。り。て。折。付。折。り。や。し。之。武。隈。の。松。を。二。夜。お。又。り。る。小。の。池。花。植。上。揚。め。仲。陸。奥。の。任。を。と。り。や。り。る。時。武。隈。の。松。の。も。と。を。し。あ。る。こ。の。み。つ。た。け。く。ま。の。松。と。い。ふ。若。木。と。も。魚。の。後。於。遠。別。四。揚。き。通。陸。奥。を。下。り。て。武。隈。の。松。は。二。木。を。都。く。い。つ。と。と。り。み。き。と。着。へ。ん。の。同。於。他。國。法。師。陸。奥。を。二。度。下。り。て。後。の。度。武。隈。の。松。も。は。り。る。れ。は。武。隈。の。松。は。け。た。た。り。一。千。年。を。経。て。や。が。た。つ。と。ん。の。名。取。郡。

玉川

六。帖。川。陸。奥。を。と。り。玉。川。の。こ。陸。奥。仙。臺。の。東。海。末。の。松。山。の。辺。玉。川。を。の。武。隈。國。多。磨。國。府。の。玉。川。今。の。四。谷。宿。北。五。重。を。越。す。謝。布。さ。ら。く。ふ。昔。の。人。の。名。も。な。を。是。武。隈。山。小。玉。川。と。凡。雅。雅。中。を。也。の。奥。の。玉。川。の。水。と。は。り。

田子の浦

新。於。送。賀。於。五。月。五。日。の。旧。江。の。村。の。ど。き。を。か。る。田。子。の。浦。波。の。り。兼。十。七。越。中。國。射。水。郡。の。田。子。嶋。に。け。た。今。所。堅。田。と。な。り。

田上川

續。古。今。冬。於。衣。の。田。上。川。や。氷。と。み。か。の。山。凡。さ。え。増。る。こ。道。江。栗。本。郡。田。上。山。下。

垂井

河。花。雜。下。系。隆。經。義。作。守。を。下。り。け。る。村。當。井。と。云。は。り。

高砂

古。今。序。雜。上。の。於。送。雜。上。貫。之。高。砂。の。松。も。系。を。友。と。見。る。こ。播。加。古。郡。高。砂。

高砂の尾上

千。裁。冬。於。中。納。言。匡。房。高。砂。の。尾。上。の。滝。も。も。す。を。り。曙。か。け。て。

高野の村

新。續。古。今。賀。於。中。納。言。匡。房。寛。治。元。年。大。嘗。會。悠。紀。方。房。凡。高。野。村。

系。君。の。十。代。の。教。も。五。月。五。日。の。ち。の。村。の。村。の。玉。水。の。係。名。播。加。國。美。濃。郡。高。野。乃。

玉野

新。於。賀。於。貞。應。元。年。大。嘗。會。悠。紀。方。玉。野。主。基。岩。屋。山。の。或。云。備。中。國。下。道。郡。河。邊。の。玉。野。

谷汲

千。裁。新。教。美。法。の。谷。汲。の。名。は。大。正。印。谷。汲。

但馬國の湯

古。今。旅。於。の。六。帖。國。但。馬。國。雪。の。白。濱。の。偶。城。崎。郡。

高か

後。撰。雜。二。播。加。系。か。と。云。は。り。家。持。を。は。る。物。思。ふ。行。て。も。又。ぬ。

高倉山

新。千。裁。賀。於。村。上。の。所。時。天。慶。九。年。大。嘗。會。備。中。國。高。倉。山。の。詞。花。雜。下。

後。冷。泉。御。時。大。嘗。會。備。中。國。高。倉。山。高。倉。山。松。山。邊。俗。云。下。山。

玉田の池

新。於。送。賀。於。清。浦。朝。臣。備。中。國。高。倉。山。玉。田。の。池。へ。の。玉。日。か。け。か。り。玉。田。の。の。あ。り。た。る。こ。の。或。云。備。中。國。河。邊。の。玉。村。と。云。は。り。

玉つ嶋 古今雜下。紀伊国海辺郡。明光浦

たつみの浦 玉葉旅記。西行法師。安流宮の二宮（鹿嶋）

高野山 新勅雜一。紀伊国伊都郡

玉川 風雅雜中。高野の真の玉川の水

高しきま 玉葉雜上。高弁上人。紀伊ふたたきと

たの浦 玉葉雜四。元暦元年。世中さうりく

たの浦 玉葉雜上。高弁上人。紀伊ふたたきと

たの浦 玉葉雜四。元暦元年。世中さうりく

高しきま 玉葉雜上。高弁上人。紀伊ふたたきと

高しきま 玉葉雜上。高弁上人。紀伊ふたたきと

高しきま 玉葉雜上。高弁上人。紀伊ふたたきと

3 袖振山 於遠雜志。人まら。をあらり袖ふる山の水垣の久き代より思ひ初てき肥前国此振山とい異なり

袖師の浦 新勅秋上。為徳の袖師の浦の秋の初風。後於遠志。一布衣袖師の浦のうつせ貝

袖の浦 後于我志。二志をそそむるの浦。朝夕浪を袖のうらみとも。新古今

為我川 新古今旅記。二条院。澄岐。于高野。為我の川。風才より。真菰片を鳴す。夜かかな

曾の系や伏屋 六帖五上。雜思。その系や伏屋。生る。常木のこと。八足。てあそぬ。君まよ。新古今

信濃紀曰伊奈郡浪合大野阿智等の西小笠原系。伏屋。八。笠原の中より。倭名。輔良郷

袖の渡

新後於送志二陸奥の袖の渡りの目川と後考。袖の渡ハ筑前小幡多し也。後於送志二曰くハ一舟もよりたらん知人もたさき袖の渡也。

深川

後撰志六坊方つて一なる思ひその川流りるハ水やまごらん深川時なく。返一深川流りてハあふぬき深川のつて一ふぬきとす。於送雜志在系紫年功也。

深川をゆらん人のいそぐ色よ出ぬてふるのちごらん。伊物深川とす。返一勢ふたれ。ゆき流り。たれれぬハ肥後守上原流為。或云深川ハ筑前太宰府とす。云々未考。

そまがし

十載秋下大納言公實。そまがし。ふるやまごらん。小曾麻の妻と云ふ。藤くもさか。○万葉一綜麻形乃林始乃狭野榛能云。綜麻形と東百呂ハ美和山と流ル。れとも。千載の流ハそまがしとす。ごらん。

つ月の神

後於送志下。大中臣能宣。月のこと云ふ。退りて。山城葛野。月神。丹波。

門久之津山崎

催馬示難波海曲。名无波乃。宇美。已支毛天乃保留。字。

津の島の難波の芦

古今志一。世々。

津国のまつかひ山

六帖山。つのかひ山。の。はまをたけと今くと。云人もたし。未考。

不称於保不称。門久之津。万天尔。以未須。已之乃保礼也。末左支万天耳。○松難波。之筑紫津也。謂筑紫船着岸之處曰筑紫津也。○山崎。孝徳紀行宮所在難波。長門之浦中。

津の島の室の早さ

六帖五。推思。○松指上の室。

津の島のいそぎ

後古今志三。馬内侍。或云松津嶋上郡石提。

つらら江

凡俗名難波。曲夫利。ナニバノツブエ。○播磨もたまのつらら江。

都留の郡野の小菰

六帖国。甲斐国。都留の郡。板野。なる白。

筑江

六帖みより。筑江は生る三稜也。○大膳式。近江国坂田郡筑江庄。

玉小菰。○坂根板。甲斐志。百人。桐原村。板野。

筑麻神

於送志五。がまの筑麻の神のつくと。おま。一つ小菰をつつ。○於送雜志。つらら。筑麻の系とせ。人難波人の湯の殺ん。○いそぎ。伊勢物語。小菰。よえ。たす。

○筑麻。八近江坂田郡。大膳式御食津の地。神事。小鍋を用。御食津神を祭。たり。

病の邑

新於迷賀於左兵部其氏
○相摸國鏡倉郡露之邑

壺の石碑

新於今雅下右大將賴朝陸奥の
いそそ見ふハエをそめをてよ

筑紫

古今離別
○國山注

月出の崎

新於迷賀於清浦初に備中むか
送々ともりなき世をうらむ月出

う海のあまの泊船

つみの嶽

於迷物名於迷雅下清平元浦
肥後守は信時彼山の報う嶽と

報の嶽

云所を又よまると
肥後國託麻郡報嶽より流出報嶽と云

筑波山

古テ序雅下○東遊曲平津久波○新
古今名一は重之築山陽山あけ山

磐石れと思ひ入るハ階らさうらう○常陸不
筑世那

つる賀

後撰離別 郡名を思ひ賀賀の越な
らハ海の山ハまといさうらう

○越前不敦賀郡○信名鹿蒜同郡

次田温泉

玉葉名一 大御言旅人次田の温泉は
湯のあふり○万葉六廿二○後後撰

賀於高次田併信名筑前御笠郡次田

な奈良都

古今春下 名と成り奈良の都
小も○大和添上郡

奈良の日向山

古今旅於菅原朝臣朱雀院
奈良小名をまうる時小た

向山としてある。びひひぬもあふも向
山○万葉十三世舊衣着猶乃山○玉葉
旅於旅衣きたうの山ハ名のうて於うら
かき秋の夕暮と流るも大和添上郡奈

長坂の山

奈良の石上寺

古今其於大和山辺郡の
石上寺を奈良へ遷して後ハ

奈良の石上寺と云

なら志の邑

万葉八廿二○後撰春中 奈良
志の山○新勅其於大和添上

郡坂上と云○崇神紀於官軍踏躰草木
之處号其山曰那羅山

なるの小川

六帖後撰 みをきする稻の
小川○新勅其於家隆風を

うくなるの小川の夕暮ハみをきするの下
なるる○山城葛野郡

ならびの邑

後撰卷四 なるの池と云け地
○綾子我冬於並ひの邑の松の

白雪○風雅秋下 後宇多院 いろくふ並ひの邑
の初紅葉秋の流流地のひきまをみる

○山城葛野郡雙岡

那紀の里

後於迷哀傷和泉次ア玉なきの里
○万葉九 名木川同地○信名山城

久世郡那紀郷

奈良加良川

凡雅賀於 正應元年大嘗會
奈良加良川岸菊盛開と云るを

○御津國長柄川 又義濃國岐阜小長良
川長良里あれとも多小ハ尼及ハる

長らの橋

古テ原の六帖橋の於て難上。天曆の四時中屏凡小橋の橋のりつふ此水もさる。若るより又ゆも七橋の橋柱昔の紀のあふ成り。時忠。玉葉旅於小舟。天王寺へ詣るも七橋の橋のりつくと人ふ間もやるのめとさるれ。橋柱をれと計も又さる。へき小あすすなうもさるるかな。橋津ふ河也郡豊崎宮所通道路西生郡長柄。

○長柄橋造営の始ハ孝徳天皇長柄宮所の時かきを紀し脱り。古今難上世中ふりぬる物ハ津の国の長らの橋と名ひ。あよりと後忠ハ古きものたよより。も存文徳天皇五十九仁壽三年十月橋津國奏言。長柄三国兩河頃年橋梁斷絶人馬不通。請准堀江川置二隻船以通。濟渡許之とあり。既小橋より。古今誰か中。難波なるも長らの橋もさるる今ハ船身と何たと人にとあり。今のさる橋難波橋也古への記あり。○玉葉雜二定家。さもあるある名のも七橋の橋柱朽す。今の人もあらず。

なむえの海

催馬亦難波海曲。門久之津。也。未左支。各難波津より。

奈波乃門不良衣

江。凡俗ハ奈波不利。謂難波曲也。

奈波乃川不良衣乃波留奈波。

難波なる御津

古今忠三。住吉の美津同。

難波津

古今難波縣。古今難下。

なごいーの山

六帖山。みな月のなごいーの山。味考。或云土佐國莫越山。○なごいの山。陸奥と常陸の境。○なごいの國。陸奥と常陸の境。

可須見天見由留奈波乃門不良衣。○名寄。顯昭。ちちれハ芦のうらむ小浪こえてたふも又えす奈波のつ。あら江。以上。橋津の難波江。○玉葉三冊。赤人詠。繩浦者。播磨國揖保郡室津。西方那波浦也。

唱尾

子我難下長。唱尾の松。○後古。今難下源家長。唱尾。○橋津國武庫海邊まで。尼ヶ巻の西。今好。

難波堀江のみをつく

池花復於原。忠季。育五ハ。

渚の院

古今春上。業平相。渚の院。洗。橋を。及。○河内國交野郡牧方渚の院。

唱海

後。忠。三。増基。法。唱海。海。と。云所。え。○後。十。我。忠。四。よ。そ。小。ち。ち。この。真。つ。白。波。○玉。葉。旅。於。唱。海。縣。塙。般。の。浪。小。う。ら。浦。の。浪。小。か。る。旅。人。○寛。平。紀。紀。も。唱。海。と。出。○式。傷。各。尾。法。國。安。智。郡。成。海。未。留。○海。り。ハ。田。と。か。て。橋。田。念。は。え。

難波堀江のみをつく。凡そめや水の増さなるらむ。○池花難上。住の江の細は。小。さ。さ。る。み。と。く。○新。古。今。難。下。原。後。頼。親。考。考。て。世。住。の。江。の。み。と。つ。く。○後。十。我。忠。四。渚。の。浦。の。み。と。つ。く。○凡。み。と。つ。く。の。早。く。見。し。ち。ハ。百。葉。十。四。述。江。小。引。佐。細。江。の。み。と。つ。く。○難。波。の。み。と。つ。く。○。池。花。の。み。と。つ。く。見。し。し。り。三。葉。旅。於。天。之。難。波。乃。川。乃。波。留。奈。波。

難波乃川乃波留奈波

鳴沢

万葉十四、富士のふねのなる沢。
後古今冬紀、後鳥羽流、ふの鳴沢。

○甲斐国都留郡鳴沢村也

名取川

古今三、各元川、瀬々の埋木、
形れいふとんとりなるあやう

○於遠物名、名取のこゆ。傍名陸奥、
各取郡名取

奈流世

万葉十四、
諸国同名多

長湊

古今大分所、君之代、限もあしと去、
湊のこ、諸不同名多、地不定

○後日登武化、万葉八、大の浦の其、
長湊と云ふ、遠山名邪之大名村也

長井の浦

新子我離別於、崇徳院、
けつ原立別とも書まき

古名の浦、ふたのくめすまの、坂津を長井

長村山

後後於送智於、長和元年大嘗會、
神亦名長村山、未考

長田村

古今賀於、仁安元年大嘗會、
妻基丹波国長田村の遠山、長田郡

同名の傍名長上長下乃二郡

長尾山

於於送智於、備中国長尾山、
○移二万里、小長田山と云ふ

長田山

于我賀於、後一条院、時長和五、
年大嘗會、御屏風、備中国

長田山、○或云備中二万里長田山

鳴門

六帖五、雜思、千里、阿波国鳴門、○于、
我為五、鳴門の湊、于多の湊、于我

為五、鳴門の湊、于多の湊、于我、
戸、先、津波の津、名郡、穴河と阿波の

中流の首、昔、堀、穴、して、潮の早き所、を、れ、鳴戸と云ふ、
其穴の上土崩れて、穴門の長門と如く、如く、海と如く、今、于、方、所、舟、通行、す

名古方の関

後撰意、二、誰の各、この関、
す、あ、る、の、後、於、送、春、上

あ、ら、の、名、古、方、の、関、も、さ、物、を、い、て、春、
の、こ、と、を、あ、つ、つ、ん、の、千、載、去、下、原、家、

陸奥、よ、退、り、る、時、各、こ、の、関、を、し、
吹、風、を、た、も、こ、の、関、と、思、へ、も、る、も

せ、ま、敷、山、松、外、の、陸奥、と、岩、陸、の、関、
奥、の、方、園、田、村、也

長等山

於遠神亦、さ、辰、の、ち、ら、の、山、
○そ、ら、の、浦、も、同、○新、後、撰、神、祇

○後、千、載、雜、上、の、近、江、志、賀、郡、と、山、城、坂、
と、物、を、七、等、山、と、号

七つりの湯

後、於、送、意、一、つ、き、も、せ、す、あ、ら、
目、を、た、り、つ、つ、こ、や、七、つ、り、の

お、ゆ、を、ら、る、ん、の、堀、川、百、そ、も、七、つ、り、の、湯、
と、る、の、信、濃、元、能、廣、郡、と、号、又、伊、豫、も、同、名

○夫、木、い、ち、り、た、る、の、岩、根、よ、出、る、七、つ、り、の、
湯、お、ひ、を、湯、も、す、と、外、の、湯、い、ち、り、の、

湯、志、志、の、湯、も、る、信、濃、元、能、伊、豫、
良、庄、瀧、久、里、村、を、湯、川、は、る、今、湯、を、

名草の湊

後、千、載、意、四、○神、武、紀、○万、葉、七、
○紀、伊、名、草、郡

那智の山

後、古、今、神、祇、○紀、伊、国、
牟、婁、郡、那、智、山、○夙、雅

雜、上、西、行、那、智、山、小、花、山、院、の、御、名、室、
と、云、り

なまの泊

土、法、日、元、正、月、九、日、○傍、名、土、佐、
国、安、藝、郡、奈、利、今、云、奈、利、利

む紫野

後於遠哀傷。糸融院の法皇崩給て
紫野小薮。○綾古今春上。紫野
○山城葛野郡。今宮の北大徳寺地号
紫野

武藏野

古今之五。秋風のふきと吹ゆる
むさしやハハ。○武蔵国の也

武路我夜乃都留能堤

万葉十四册一

紫の雲の林

新古今教。雲林院小
紫の雲の林を足
後せ。法小あふちの花咲より
○三代實録。山城愛宕郡雲林院也
○紫野併

武藏たる堀かひの井

六帖井。或云武蔵
入間郡末考

室のやしま

六帖嶋。下つけや室の八嶋小
立煙思ふも今社ハ志ル
○綾後撰。定家。下野国（行人）
立そひてそれとも見や多ふまき室の
八嶋の深き煙を。○室の八嶋の煙ハ集
出。中下野小惣社村室ハ嶋明神其野
中有清水。水氣上如煙と云リ

牟之呂太乃伊の奴支加波也須牟霍乃

○案倭各下野国且利郡堤田郷を室の
八嶋の地如。○都為の地。或云見玉印。鴻巣地
○奴支加波ハ席田郡の川上小越前国ぬく
之村ろクミのゆリキたれハ奴支川と云ル。
又志江小貫各村の河流あれとも席田ハ
なり。○新千載。賀。○新儀古今賀。於
席田のいつ貫川の川水と住て。田を
いれス。き

むいあけの迫門

新和雜四。新千載
儀。○玉葉。儀。平
忠盛朝臣。備前守。まを下り。る。付。む
あけと云所の古き寺の柱小。付。む。
む。の。せ。の。あ。け。の。え。の。新。を。都。の。も
コ。す。ル。ま。る。○或云備前国邑久郡出
明道門。○案迫門及小嶋の内。ハ。潮。干。て
田地と云る。春の湊も名のこ

室の泊り

新於送。儀。於
○播。廣。攝。保。郡。室。津

室津

土佐日記正月十一日
○倭各土佐国安藝郡室津郡

う 畝火山又垣の系 六帖山雲の上小戸を鳴なる
うねひ山みさき系小糸

ウヅルマ 百葉十一行の同門八河 **未考**
潤川 或云大和添上郡賣間清水を是る

宛名日子
うたひこころ系 六帖原山上懐良各小糸ハ
いつれもかき朝なく
たぞ、せき、うたひこころ系 **未考**

○宗古事記仁徳段埴みものちる城
たのむかひのころ系 相似り、是ハ大和城上
○又案万葉九廿三丁 葦屋之免名日
處女、是ハ播磨国免原郡葦屋也

う 山 新勅撰於漢徳公の初後古今別
部○山城白川也將軍地藏と云所号
瓜生山

免原郡 伊勢物語の倭名播磨国宇波良郡
葦屋又也

う どの 土佐日記二月九日津国鶴殿と云所
小伯る○松津国江口平田鶴殿係也

浮嶋系 新勅撰雜四上り、足柄の関路を
越て云一村を住む浮嶋系と

浮嶋系 足柄ハ相模○浮嶋ハ駿河富士郡
原吉原宿の石松原也○浮嶋の説ハ仙免
律師百兼註小出、真龍考、国号考小
注す

打出の溪 於送恋五、近江なる打出の溪の
うち出て恨やせまり人の心を
○新十我雜上、大伴黒主、亭子院石山小
詣させ給る時、近江国官打出溪小
仕奉。後後於送春、此の海ハ氷解らし
白波の打出の屋、春風を吹○志賀郡粟津

う たの氷室 新後撰復於山城の
うたのひらり○形未記

山城葛野郡歌荒葉田同地
雲林院 古今春下○三代實録、山城愛
宕郡雲林院○今宮辺系融院

御葬地
梅津 大堰川文、月の桂春の梅津
○式山城葛野郡梅宮

梅の宮 新後於送神社
○式山城葛野郡梅津同地

太秦 後撰秋上、泊云○姓氏録漢氏注
ハ父 ○山城葛野郡宇豆麻佐

宇治の橋姫 古今恋四○山城宇治川の橋
○七つまハ説○橋守ハ雜上
○宇治山ハ序小出

う どの溪 東遊曲、駿河舞歌、須留加奈留
宇止濱小打ある浪者云○倭名

駿河国有度郡○後拾遺神永部能因
法師伊豫国越智郡三嶋明神小東遊
奉る時よめるが、宇度溪の天の羽衣昔
きて振る袖やふの祝子と流るハ
伊豆国の三嶋明神と伊豫へ移したる
昔と思ふなり

宇 津の山 六帖山、駿河なる宇津の山
のうつ、よも暮るも、あふ

人のあふさ○新編古今旅記、冬後雅經
ふ三分一昔ハあつうの山と説しを思ひ
出て、中納言雅世昔ハ昔と云うら
の山越てそあふさの細乃○倭名駿河
国有度郡内屋乃也○山乃ハ今、新乃
と通

うる川 於送雅下。各小川のへと黒く

うる川 見えすうる川さすうる
流るるあめり。元例
○後陸奥黒川を云う

宇多の松原 土佐日記正月九日。土佐国
安芸郡赤坂の辺。景地

○今ハ不詳

浦戸 土佐日記廿七日。土佐国高知大浦
浦戸併鹿兒の崎も同地

浮橋 新於送賀於石山おろす
ふる時今うる橋と云所又退て

○近江望田の浮橋。石山志賀平野田

うるま 後於送旅於源重之。東海
うるまと云るハ行か

人のあれハちりり
○家武飛国入る即り

うるまの嶋 千載志一。うるまの嶋の
人定よたあれあて

この人の物云をゆもあて。かあつ
かあうるまの嶋の人なりやあ言を
あてす形ある。琉球国をうるまの
と云

井ての蛙

後撰志二。忠房相長。陽のふもひりしひめるをあやうか井ての蛙と成やあまは

井ての山吹 山城国綴喜郡井ての玉水郷々。法小井玉里を云へし
○於送春於。惠慶法師井てと云ふ山吹の花咲くを云て。山吹の花のあやう

川原さより見てこそゆめ山吹の花。新於送春下。井ての山吹。山城玉水井て

井ての玉川 風雅雅上。法日十三。山城国
綴喜郡玉水領官同地。玉水江

井ての志らし 新古今志二。もろもろや思ふを云てのこ。えそ山城の井出の志か。この
同志五。山城の井出の玉水。よもろもろを云て。粒うかひも死せぬなり。土井出山城

井せき山 新古今志。今旅於。道命法師。井園山を越る。とて。流し出る。泪汁を。先きて。井せき山
山を。く。越る。と云ふ。未考

お奈の湊 千載秋下。夜泊鹿。うきねする。お奈の湊。ふゆ。森の。も。か。あ。す。峯。の。松。風
○傳名。松。津。河。邊。郡。爲。奈。○式。豊。嶋。郡。爲。那。神。社

お奈のふし 於送神示。志長。お奈のふし。系。お奈。志。ま。の。も。る。白。さ。の。權。馬。系
井。奈。野。曲。回。○新。後。於。送。秋。下。小。篠。く。お。奈。の。月。の。あ。る。夜。ふ。し。系。お。奈。の。志。ま。の。も。る。白。さ。の。權。馬。系

名。の。志。ま。の。金。葉。冬。於。志。長。お。奈。の。ふ。し。系。お。奈。の。志。ま。の。も。る。白。さ。の。權。馬。系。の。池。水。氷。を。さ。り。の。傳。名

播磨河辺郡爲素のふり系柴原

の野中の清水

古今雜上、その上布敷から小野の沢、いり、の野中の清水ぬる水ともとの
心を知人をふむ。六帖五上昔ある人、を立敷地のたの草方て清水ともよハ
又もかよむ。依於遠其於、石上布敷の中、今、小、分、く、後、の、草、の、沢、の、つ
から野中の清水知人もある計、小、後、の、草、の、沢、の、つ、
六帖道、いり、の、中、布、敷、の、水、ぬ、る、水、
野中古道、大和布敷の中、と云。

野の宮

於遠雜上、野の宮、神宮の庚申、く、く、松風入、夜琴と云、神宮、野の宮、琴のぬふ
峯の松風通、く、く、い、つ、の、水、を、す、く、く、く、く、の、山、城、の、野、の、宮、

野田の玉川

新古今冬、能因法師、さ、れ、の、松、風、く、く、て、陸、奥、の、野、田、の、玉、川、を、流、す、り、
後、古、今、冬、の、依、後、於、遠、雜、上、陸、奥、の、野、田、の、玉、川、

野海の玉川

予、我、秋、上、源、俊、頼、朝、臣、あ、す、も、く、く、野、海、の、玉、川、秋、く、く、く、く、の、浪、小、月
宿、り、り、り、の、案、邊、江、栗、本、郡、野、路、

野海の篠原

玉、栗、原、於、東、海、へ、遠、く、く、野、海、と、云、あ、す、も、く、く、野、海、の、水、ぬ、る、水、
行、先、遠、き、野、海、の、水、ぬ、る、水、の、道、江、栗、本、郡、野、海、の、篠、原、行、先、

野守の滝

新、古今、冬、の、依、後、於、遠、雜、上、野、守、の、滝、は、て、く、く、思、守、の、滝、と、云、非、比、石
新、古今、冬、の、依、後、於、遠、雜、上、野、守、の、滝、は、て、く、く、思、守、の、滝、と、云、非、比、石

後瀬山

百、葉、十、四、二、若、狭、道、乃、後、瀬、之、山、
續、於、遠、西、四、後、世、の、山、の、秋、の、夕、暮、

○若狭国遠を郡小浪町南後瀬山と

能登香山

百、葉、十、一、六、
未、考、

杞 大峯

續後撰雜上○續於遠征於法下良實
大峯まき今も程首の記を考へて又
る入みりけの山○新於送別於行首大峯
の吹こーと云宿ふとまの ときり ○大和吉野
郡大峯小笠山ハ凡雅雜上も出

大荒木の表

古今雜上○万葉十一
○大和宇智郡浮田表同地

大江山

天武紀八年大江山関○新古今
秋下慈圓大江山かましく月の
新古今をてる羽田の面小なるる子

○山城乙訓郡丹波坂

於保比礼也半比礼乃也末

東取曲
大廣敷

○近江志賀郡比叡山山西山城愛宕郡

大内のまをての系

六帖一下雪大内の
ま神の系も海鳥か

いたくたな海を妹もあそぶるふ

非地各○大内山山城河原ま

大内山

新勅雜四亭子院大内山小おり
まーる。白雲の九重よ立峯な

れハ大内山と云ふをるる○山城葛野郡

○仁明天皇放棄の地也宇多天皇在飾

の後寛平法皇とも亭子院とも呼ばれ

の仁和寺も崩大内山陵ハ火葬

大原川

後撰雜下惠慶法師兩院自大原川
を海りるふひるの附りたる

世中あやーきたひぬれと大原川のひる

よそをみける○山城愛宕郡小野郷の大原川と云

音羽山

古今及秋○同雜上忠之ぬひえの
山なる音羽山をてて○同志三

山科の音羽の山のもよ大原○山城宇智

郡音羽山音羽流音羽川同地

大沢の池

古今秋下○山城葛野郡嵯峨
後世廣沢と云

大堰川

古今秋下○大堰川文○日本後記
○山城葛野郡小倉山下

大原野

古今雜上業平大原や小垣の山毛
多社ハ律代のりも思ひ出らぬ

○山城乙訓郡大原也後世愛宕郡小倉

の大原小新炭竈と云ふ乙訓の大原と云

大京

新勅冬終西行も伊小信る時大京
住る人よきしる大京ハ比良のき

ぬの道ハハ高坂やとを思ふをやれ

○後於送雜三長羅法師大京より所と

きて歸るふあやハ勝の清水を居

て心よ月の氣ハ浮やや○退羅区ハ福人

て年月もうると大京や勝の清水法身ハ

○新撰古今下流清浦相原と云

大京ハ行とハたのふをすハ矢背
通りぬる物もそをみける○上件の大京ハ

愛宕郡小原郷の大京也

朧の清水

後於送雜三素意法師水草
ハ朧の清水と云ふ

○續千載其於朧の

おろの清水○新千載雜中大京の朧の

清水○山城愛宕郡小原郷大原里にて

寂光院西小朧の清水と

音羽川

古今志五よそふのこまきまき物を
音羽川はるとなりふみるハゆらん

○新於送雜上中納言公雅山科の音羽の川

さ夜千をたふぬ物ハゆをのこそをく○

後後撰秋下須徳院音羽川秋せく水の

まきまきあまるも山の木葉成りり

○山城宇智郡音羽山流

老の坂 後撰雑上〇山城之訓郡丹波坂
〇千載神祇志と云山と云是也し

〇千載神祇元暦元年今上御時大嘗會
徳紀方辺江國諸神里主基方丹後國

十年山若光範あま山津のよきせり
柳葉の榮まきりハ君うるとうの丹波

おふの浦 古今伊弉志おふの浦の片枝さ
後於志

雜上おふの浦おふの浦後撰志二おの、
倭子誤〇伊弉志戸國答志郡大神宮飲

御食所大浦・皇子と獻上〇近江國筑
庄式大膳式大の浦より大衰（牟信と獻

おき長川 天武紀近江坂田郡息長
〇新勅撰 鳩島の息中川

おいその巻 後於志序〇新勅撰雜上〇
式近江國蒲生郡與石神社

〇老曾と與石なる曰

大葉山 六帖山大葉青も葉山と稱川に
〇若狭國大飯郡青葉山

おきの國 古今旅記
〇山陰道

大倉谷 凡雅旅記若氏みま山と通りて
大倉谷と云所まて今向ふ方ハ赤

石の浦なりまて明やぬ家思ひうま
〇播磨國赤石大倉谷より〇みま山ハ丹波

高江川 六帖川紀のふのあま川の高
たももせぬ〇後於志雜四増基

法師然伊予系りてあま川の辺まて
〇紀伊牟婁郡新宮川を今も高江川と云

大津 土佐日記廿七日〇土佐國府長岡郡大津ハ
高知の邊辺浦戸の入江なる

大淀の湊 伊弉物語〇新古今志五大淀の
松つらつくもあつたかく浦見

てのとも海白浪うたよ〇同雜中・舟宮
大淀の浦小みそきする〇凡雅賀志

後頼大淀の湊の兵砂を君代の新小
じれとや浪もまきらん〇伊弉志多氣郡

息津 玉葉雜二大納言爲氏清見
打出て見れハ屋系之美保の津

ハ浪靜なり〇新撰古今春上杉系の
又えやいつこあま保の息津の春

の曙〇倭名駿河國庵原郡息津於本

お木の湊 於志神志云兼盛いにて
時もあつたよ近江なるお木の

湊の天のみつきハみそひか〇近江坂田郡
筑庄大膳式御物湊

大倉山 於志神志云近江地名中〇後於志
賀志近江大倉山〇万葉七連倉山

と稱も御倉山とて大倉同
〇式近江志賀郡小掠神社

大嶋の嶋 凡葉五〇新勅撰旅記惠慶
法師大嶋の灘のわけ地

〇周防國大嶋郡大畑の迫門と嶋門と云
古今墨滅多〇おきのの宮

音高山 凡雅賀志後成仁安元年大嘗
會音高山オトタカ吹風ハ枝も

あつたさき若代をよそふ声のそきたる
山未考

大湊 土佐日記十二月廿九日正月二日大湊泊
〇松後各土佐國安藝郡奈和利室

津等此地大湊なる

音无の湫

於送志二、音无の湫と云ふは、神をたふさるんをききて、いつこたふるんをききて、いつのたき。新於送雜中、能因、音无の湫とて、都人きくぬをききとて、音无の湫といひ、誰ういひて、めん、山城受岩郡小原郷、よききり、の湫と。

おふの川系

新古今集於、五月五日、おふの川系、のまこも、あかりて、や浪の下、よ杉をん、同、雑工、後頼朝、長、松を、あふの浦、浪を、ゆり、見れ、とも、あき、す、山、た、り、の、元、○案、小、万、葉、集、松、麻、の、ま、の、下、羊、ま、ま、轉、て、新、古、今、の、元、の、地、名、の、如、く、な、り、り、

奥津の湫

古、今、集、下、君、を、あ、ひ、お、ま、り、の、湫、と、い、ひ、は、か、ま、り、は、ま、り、の、湫、と、い、ひ、
泉、の、心、は、持、後、紀、大、鳥、中、言、御、海、と、い、ふ

く久米の岩橋

後撰志三、葛城やあふの橋、あふ、い、こ、を、思、ふ、ん、を、中、つ、ま、せ、め、○於、送、所、々、
かつ、ま、の、く、め、の、橋、○後、撰、志、五、慈、鎮、○新、古、今、志、五、能、宣、郡、長、
葛城や久米、は、は、す、岩、橋、の、後、う、中、と、ぬ、や、を、て、ち、ん、○久、米、大、和、国、高、市、郡、○
雄、略、紀、四、年、葛、城、一、言、主、神、送、天、皇、至、來、目、水、○岩、橋、の、う、ハ、凡、土、記、の、説、成、人、今、ハ、
風、土、記、終、て、出、所、不、知、案、小、崇、神、紀、倭、百、曾、姫、の、墓、と、言、ハ、人、造、夜、ハ、神、造、と、云、う、の、
轉、た、る、古、事、り、

鞍馬の山

六帖山、墨、深、の、く、ら、ま、の、山、○後、撰、志、四、同、雜、二、く、ら、ま、の、坂、を、夜、越、る、云、云、○新、
於、送、叙、教、和、泉、式、ア、く、ら、ま、小、糸、り、た、り、く、ら、ま、小、た、物、と、を、こ、せ、り、云、云

○山城受岩郡鞍馬山

朽木の山

金、葉、志、上、於、神、く、ち、木、の、拙、の、谷、の、
埋、木、○新、勅、撰、雜、四、鏡、倉、右、大、臣、

く、つ、木、の、拙、ふ、れ、る、白、雪、○同、冬、後、雅、經、

近、江、な、る、く、つ、木、の、拙、○或、云、近、江、高、嶋、郡、朽、木、

今、存

くらぶ山

古、今、春、上、○玉、葉、賀、於、近、江、国、く、ら、
ぶ、の、里、○佳、名、近、江、甲、賀、郡、藏、部、

栗本の里

金、葉、志、下、近、江、て、ふ、名、ハ、高、嶋、小、
き、こ、山、と、い、つ、ハ、案、小、栗、本、の、里、

○式、傳、名、近、江、栗、本、郡、

位山

六、帖、山、衣、よ、の、名、ま、ま、り、り、信、濃、と、あ、る、
位、の、山、ハ、君、う、ま、ふ、ま、の、信、濃、国、と、

美、濃、飛、騨、国、坂、接、位、山、今、飛、騨、小、属、

草津

新、於、送、哀、傷、草、津、と、云、所、より、船、本、系、
○近、江、栗、本、郡、草、津、今、存

黒髪山

於千我賀於文永元年大嘗會
於黒髪山の万葉十一の黒髪山
上野国群馬郡之又下野国日光山曰
名をも黒髪山と云

草陰之荒蘭之崎乃笠嶋

萬葉十二
萬葉九の於送雜秋曰同出
義舞のさきの笠嶋を又つや君う山
こゆらん末考

倉先の湊

案阿蘇国倉先嶋末考

黒戸の湊

玉葉於於若原の孝標の女
上流より上るとしてくろいゆと
云所不ゆりてまともまりこ音あひ
いつうえんくろいゆの秋の夜の月
科日記

熊野川

新古今神祇新宮ま詣とて
熊野川をて熊野川たすあせの
みたれ柳さすうみそれぬ浪の通なり
○後古今神祇を始ま熊野川の船
○紀伊国牟婁郡田辺の川上熊野川村

黒塚

於送雜下。兼盛陸奥名取郡黒塚
と云所小重之がいも人あまると
ゆて陸奥の安達系黒つふ鬼
こもりつふあまことうの安達郡の
東は黒塚里と

雲田の村

千我賀於平治元年大嘗會
春分丹波国雲田村天地の
さかめもあめ御代たれハ雲田の村の
稲とこそつけ○丹波国蕃郡
田村

久米の更山

古今大分所美作やくめの
○池花龍上原季より守りあて
や久米の四山とあともミム久米郡
凡土記曰

熊のくら

於送物名熊をくらと山寺あり
くまのくらんももさえずと

黒崎の松原

○案紀伊国牟婁郡熊野の神の倉
土佐日記二月朔日和泉の
灘を潜行黒崎の松原
経ゆく笹の浦より経ふひく
○案和泉国石津埴町の海之今黒崎
の名あり

や

山の辺

後撰旅部。山邊。山邊とて山の辺と云所まて云。大和国山邊。乃倍。

八幡山

新後於送神祇。山城綴喜郡をこし山。

山吹の瀬

新於送春下。散々つる山吹の瀬。行春の花。棹さす宇治の川長。

山城の井で

古今春下。山城綴喜郡玉水郷井出。

山城の鳥羽

古今志四。倭名紀伊郡鳥羽渡。

也末之呂乃巳末乃和太利乃瓜作

催馬赤山城曲。倭名山城国相赤郡大狗下。狗末。

山階寺の仏足

於送哀傷。光明皇后山階寺より。仏足。かせ。みそら。二の。あそ。た。た。昔の人の。ふめる。跡。是。仏足。碑文。の。旋。頭。之。旧山城山階寺より。今大和添上郡茶師寺より。

山崎馬

古今別部。式。馬。山城。訓。郡。山崎。

山崎の神

古今別部。山崎より。送り。す。山。城。山崎。馬。南。小。神。と。云。所。今。神。南。と。用。

山崎の橋

土佐日記。二月十一日。八幡山。今橋本宿より。昔。西。国。行人。山崎。よ。と。云。所。今。神。南。と。用。

山科

於送賀。伊物。凡。雅。志。一。於。送。雅。思。山。志。の。木。幡。の。里。万。景。十一。七。山。科。の。木。幡。山。の。倭。名。山城。宇治。郡。山。科。也。赤。

やう橋

古今旅部。三河国八橋と云所。三河の。伊。物。語。同。結。古。今。志。一。三。河。の。八。橋。の。く。も。て。三。河。碧。海。郡。沢。路。の。北。八。橋。の。寺。

山田の系

新古今。復。於。西。行。山。田。の。系。の。枝。の。村。立。の。祝。詞。式。伊。勢。豊。受。宮。祭。度。會。乃。山。田。原。

をさろ山

六帖山。昔。人。を。今。志。乃。を。さ。ろ。山。の。林。汁。小。末。考。

やなせ川

六帖川。やなせ川。水。流。定。ぬ。と。よ。き。け。八。橋。も。ま。く。ね。ま。れ。を。さ。る。の。倭。名。三。河。国。八。名。郡。八。名。也。八。名。井。也。八。名。村。今。好。

矢田野

後後於送冬。於。送。冬。於。さ。え。り。も。あ。ら。の。山。風。矢。田。野。の。あ。さ。ら。を。あ。む。す。ふ。た。り。○。於。送。秋。上。あ。ら。の。山。々。芳。明。る。秋。風。矢。田。野。の。あ。さ。ら。を。あ。む。す。○。矢。田。野。ハ。越。前。国。敦。賀。郡。愛。登。山。北。一。里。津。道。名。の。宿。の。所。○。附。云。古。事。記。仁。德。殿。八。田。着。所。女。夜。多。能。比。登。母。登。須。宜。等。大。和。国。添。下。郡。矢。田。寺。の。地。

末卷向の玉きの宮

垂仁紀二年十月。都於纏向。是謂珠城宮。古事記仁師木玉垣宮。○玉葉冬部。後成。卷向の玉きの宮。小高小井。ハズ。小昔のあたをそ

卷向の穴一の山

古今大分所。卷向のあたりの山の山人とも。又。山かつしせよ。○大和国城上郡卷向川の北の宮所。玉きの玉垣

益田の池

六帖池。於送志。益田の池のりきぬをハ。性靈集。益田池。碑銘。空海。弘仁十三年。造。大和国高市郡也池。廢。今池尻村存。

松の尾

後於送志神祇部。一条院の御時。始て。松尾の行幸。○式山城葛野郡松尾社

真木の嶋

金葉秋於。宇治川の川瀬。も見えぬ。父。小棋の嶋。人。加。も。み。ふ。たり。○風雅秋上。寛元元年。真木の嶋。み。り。○山城国宇治川。也。棋の嶋。み。

まつり山

六帖山。津のむのまつり山。ハ。み。み。も。ち。は。し。今。来。と。り。人。も。た。り。○。后。苑。春。於。こ。ぬ。を。侍。り。山。の。み。み。も。ち。は。し。今。来。と。り。○。后。後。於。送。復。於。時。の。返。侍。り。山。の。都。分。多。る。云。○。或。云。極。津。豊。島。郡。侍。り。山。

間々の徳橋

万葉十四。後於送志。四。千。我。雜。下。下。湯。み。ま。り。徳。橋。云。○。以。雅。復。於。五。月。為。小。こ。え。り。時。ハ。葛。筋。や。か。つ。水。か。か。る。ま。の。徳。橋。

松の浦嶋

新。勅。撰。雜。四。陸。奥。仙。臺。東。海。あ。は。限。川。の。北。小。松。浦。嶋。末。の。松。山。玉。川。多。賀。城。趾。埴。窪。松。嶋。併。○。万。葉。十。四。麻。都。我。宇。良。ハ。遠。江。国。豊。田。郡。池。田。並。趾。松。尾。の。社。地。ハ。水。草。の。名。と。

籬の嶋

古。今。陸。奥。宮。亦。世。と。を。都。り。を。名。り。さ。○。陸。奥。宮。城。郡。千。賀。埴。窪。の。中。小。籬。の。嶋。と。

松嶋

六帖嶋。陸奥。み。み。と。云。たり。松嶋の。侍。小。久。く。と。な。ぬ。君。も。○。陸。奥。宮。城。郡。仙。臺。東。海。松。嶋。○。古。書。无。所。見。

真葛の京

新。古。今。秋。下。嵐。吹。真。葛。の。あ。よ。ひ。麻。は。り。ら。と。の。と。や。ま。と。あ。く。ん。○。同。名。一。大。傍。正。慈。園。亦。名。ハ。松。を。時。刻。の。添。り。て。真。葛。の。あ。よ。ひ。と。く。ち。あり。○。地名。あ。く。ん。も。あ。よ。ひ。と。く。ち。あり。今。は。山城。の。赤。山。概。園。を。ハ。真。葛。の。京。と。云。所。も。る。は。疑。い。

松嶋や小嶋

後於送志。益田。源。重。之。松嶋。併。○。万。葉。み。み。と。云。たり。松嶋の。侍。小。久。く。と。な。ぬ。君。も。○。陸。奥。宮。城。郡。仙。臺。東。海。松。嶋。○。古。書。无。所。見。

○新勅春上。陸奥宮城郡。み。み。と。云。たり。松嶋の。侍。小。久。く。と。な。ぬ。君。も。○。陸。奥。宮。城。郡。仙。臺。東。海。松。嶋。○。古。書。无。所。見。

真野の浦

万葉四〇綾後撰秋下、吹おろす平山風やきうらん真野の浦人衣打たり
〇金葉秋秋五神の入江〇近江国志賀郡の北

真木村

淡路送賀於嘉祥元年大嘗會、近江国真木村、いさきたるわけ、むらじ
真木の村天の鳥を代あるとも〇式伊勢国鈴鹿郡真木尾神社〇後日
十六三伊勢国真木山、仰山背伊賀近江等国撲滅之〇極近江伊賀伊勢郡接て廣く
其木山と云ふ、其木村ハ嘉祥の淡路江よる

益原の里

〇案近江菟麻長濱近前原の旧名益原
〇備中国賀夜郡松山郷

松ヶ崎

於送神亦近江地名中、清原元暉、
ちとせふる松ヶ崎ハ山田川田原

松山

新編古今賀於永和元年大嘗會、基
方奔風借中国松山、どりの花咲
ぬらー松山の本とて、後白雲
〇備中国賀夜郡松山郷

松ヶ崎

於送神亦山城地名中、平兼盛
貴のすむ松ヶ崎ハ山田川田原
たれとて、すむ松ヶ崎ハ山田川田原
〇備中国賀夜郡松山郷

松山

于我賀夜郡松山郷、後継胡に澄岐
守をとりたる時、君が代小らして、いづく松の葉敷、すくまうらう〇後於送別於
澄岐ハまらうらう、人小松山の浦風吹かせ、いろひて、悪人懐忘具、原光成、送

松帆の浦

万葉六、淡路嶋松帆浦云々〇新勅撰意三、定家、建保六年、合分、
おぬ人とまつるの浦の夕なき、やくやもあゝの、身もこころ、いつ、〇万葉の、淡
路、月、今、淡路津、名、岩屋の、東、龍の、松と云所、松帆浦也

松浦ささの姫

于我意四、木の、る、うらひ、ふ、を、社、と、よ、よ、又、そ、い、う、く、す、き、松、浦
ささの姫〇万葉五、ひ、水、ある、山、〇肥前国松浦郡

け けた川

金粟雜下連歌。源頼光但馬守のありたる館のおかけた川と云川也。傷名但馬守有在乱多郡。○氣多之所。○古事記上。因幡国氣多郡也。

けふの細布

後於送志一能因法師。錦木たたくてなるこそ朽よりけふの細布む。あしきとや。○新千載志三。正三位隆教。文保百在中。以ハアふころむ。むゆのあそこの思ひくらせる。○の細布。○新於送志二。休見院中制衣。寄布志。あまふのや。○陸奥国奥南。狭布里。細布ハ巾狭き。今元。錦木ハ古の風俗。○千載志二。錦木の千束。ハ限りなき。せ。ハ。よろ。また。す。物。と。南部の花輪。錦木塚。ある。後人の造り。ハ。

ふ 布敷の湯

古今秋上。仁和のみと。○布敷の湯。後志と。○後於送雜上。石上。知道の。○武大和国山辺郡。石上。産布。布敷。社。

ふるの津枚

新勅撰秋下。○武大和石上。

ふる川。古今旋頭分。た。せ川。ふる川。ハ。二。本。ある。枚。先。ハ。浦。原。の。川。辺。の。枚。と。布。敷。の。津。枚。と。を。二。本。を。枚。と。よ。こ。合。せ。たり。

ふるから小野

古今雜上。石上。布敷。か。小野。か。もの。もと。相。○新勅撰秋。み。な。月。の。夜。も。い。く。夕。立。の。ふ。り。り。

源氏物語の。ゆ。り。ゆ。原。の。二。本。枚。とい。ゆ。せ。の。川。も。ある。川。と。云。ふ。た。ね。り。

不知不乃の如太知加波良字之女波世之

藤生野之。催馬赤。○大和国吉野郡。蜻蛉野。を。か。ひ。つ。ふ。と。云。と。誤。久。一。或。云。藤生野。之。形。原。ハ。山城国。と。と。云。末。考。

○六帖氷。ふる川。の。上。ハ。氷。れる。ま。を。山。下。に。流。す。ま。り。う。ら。ん。○後。於。送。復。於。五。月。夜。ハ。ふる川。の。小。氷。こ。え。て。後。方。ふ。ま。る。二。本。の。枚。○大和山辺郡。石上。布敷。社。前。の。川。也。

汝草の山

古今哀傷。○伊勢物語。汝草の帝。是。ハ。仁明天皇崩。の。て。山城。の。汝草。小。薺。奉。在。草。帝。と。尸。○千載秋上。後。成。冬。れ。の。野。ハ。の。秋。風。身。と。志。を。て。詠。唱。あ。る。汝草。里。の。侯。牛。哉。冬。終。汝草。也。竹。の。ち。た。分。る。て。依。身。ふ。か。る。雪。の。明。る。の。傷。名。

山城云紀伊郡深草 不知

伏見の里宇治の川浪 後於送秋上伏見山林の旁の絶

まより運ふ又ゆるり川の浪の折勅
播春上の新後於送雜上の伏見山城
紀伊郡宇治の折勅

吹上の溪 古テ秋下

福原の都 後古今旅部宿範福原の

都小あり生田と云ふ也
○播津国兵庫邊矢野郡近福原と云

二見縣 金葉雜上伊勢国二見の浦より

玉くけ二見の浦の貝志けとまき
給ふ又ゆる松の山く立の折後於送冬於
二見縣月ひきさえてまの折小伊勢
遠くすもなきあり○後各度會郡二見
美

二村山 後播磨三清原諸實の分次

二村山の関を衣たつと惜とて
二村山の関とちりたるの○後古今於須徳
院御製○曰播磨右大将頼朝○更科見
○三河と尾張邊二村山古駁路

ふだのぬ 万葉三〇古今序

二荒山 六帖山下野やふたらの山の二心云

○後播別於下野の山ふた
○式下野国河内郡二荒神社

船木の山 後於送秋下船木の山のみち云

○新勅播秋下經忠の長門國厚
狭郡船木の推古紀廿六年安芸國沼田船木の

船岡 六帖岡船世のいもへまする白雲の

立別るも衣とを思ふ○後於送
神祇於船系長徳今官を舟神の時
白妙の考みそとと九持て舟を初る
紫の神小日宮山城葛野郡紫野の
今官を云へ船岡同地○後三代寧海紫
野邊の葬地なり

深日の浦 新古今雜下船系清正天つ風

吹ひの浦小なる田在のたか
雲の海さるへま○契沖云清正の
吹ひの浦紀伊の今寧小和泉国日根
郡吹日行宮あり万葉十二紀伊國壞
○後古今於衣笠内大臣播磨余
謝の吹井の溪千と流る丹後國余
謝の浦なり

二みの浦 古テ旅部船系かぬすけ但馬の

湯まうる時ふとの浦と云
ふまゆりて又つくよかわつたなきと玉く
まけ二見の浦の明てとを又
○播磨國如古郡二見天神社也

富士の柴山 万葉十四〇新勅播磨五〇駿河

國富士山下柴山越道今存
富士の鳴沢 万葉十四〇後古今冬於後鳥

船瀬の溪 風雅賀於中納言匡房兼保元

船瀬のかけ橋小駒の蹄の音を絶せぬ
○續日十八筑前國金崎船瀬の播磨國
船瀬の船せ八船著の遠淺武為公
後小地名の如くなり

後坂山

續後撰賀茂寛元四年御序凡言
○紀伊国後代山を誤り後坂山

後代坂

科明紀○万葉九○新千載雜中後代
の御坂の松の木より夕日不見ゆる

淡路嶋山○紀伊国名草郡後代坂西望

淡路嶋の由良泊嶋の方眺望

許勢の妻野

新撰古今春上、高も消氷も解て川上のこせの老池かきなつらり
○式大和国高市郡巨勢神社○古事記孝元段○万葉

木の嶋の社

於送物名この一ま○新勅撰物名この志まのみやち○式山城国葛野郡木嶋
座天照御魂神社○鏡日二木嶋神○山城葛野の太秦よち

己未乃和太利

惟馬示山城曲
○体名山城国相承郡大狗下狗

おかの妻

六指森○式山城し訓郡久何神社
下鳥羽の西よち久何とこが通用

小嶋

續古今春下、光俊、文永二年、嘆白ふ
小嶋の嶋の山吹や八十氏人のかきか
らむ○山城宇治の川辺、今小嶋と云地もなり

木幡の関

新後於送志二家隆、建保二年
百首中、遠くくぬ依見の里の関
守木幡の峯小君をすゑらる

木幡里

万葉十一卷山科乃強田山○六指
山城の木幡の妻○千載雜下物名、
山城のこせの里○式宇治郡許波多神社

木幡川

於送志二木幡川にたらしむる
とをを名すらん此つせもなり
○山城宇治郡

許曾

後於送志賀茂能因法師、津国許曾
と云所は住て、秘笈の指の夏小嶋
ハ生駒の山を足えすたりる○松津海上郡

こよろきの磯

古今雜上○風俗、小由流支曲、
古与呂木乃以曾太千奈良之
以曾奈良之云云○万葉十四、与呂伎乃流

伊勢寺下花の井と云所小能因塚を

木枯の森

六帖森人志此ぬ思ひ理河の
国よこそとてさうさうの森ハ
まろれ。駿河国安信郡安倍川と

コトコトを川の派よこころの森と

こまひの森

居下 於遠哀傷。右兵衛佐のつ方
退落て存執のものと。顯光。

こまふつれくるとの時をまて兒こ井の

あひいふと。後於遠雜三。名系兼房。

伊豆国小湊されて。五月やここあめ

妻の都なる人あはすのこたまさるるを

。區ち。大武之位。時を志とのあまの産

ハ云。或云伊豆国賀茂郡兒意居處。

未考

衣の浦

新後古今雜上。中納言雅世ぬしてあす
あまの衣の浦浪のみさめすくたまき

艇夜の月。三河国の衣の浦とやの陸奥の衣の

浦なり。〇倭名冬河国賀茂郡舉母古呂脚

碧山郡小湊ひて古ハ入海也。

衣の妻

後千載復於。秋風迎き衣の妻
。後於遠復於。夕日もたき衣の

妻。同秋下。秋浦。秋毎に誰う深らま志

らぬか。ぬの衣の妻。新後於遠雜秋。

色こそ移れ衣の社の。新後古今復於。

津守国冬。時を志との丸かきりるて

。本年五月の衣の妻。未考

兒屋

於遠冬於。重之。沐のよのこや。後於遠

。後於遠。能因。あまのこや。倭名播津国

嶋上郡兒屋。この地をな。難保江のこや

と後。此の地を遣

。倭名相模国餘綾郡餘綾。与呂

こぬみの浜

万葉十二。磯崎の許奴美乃浜
。續後撰。五家隆。絶絶て

今。こぬみの浜。磯崎の浪の下。杉をん

。後後撰。雜中。俊頼。磯崎のこぬみの浜

のうつせ貝と。常陸国鹿嶋と大洗磯崎

社也。あつ知田の傍と。

衣の関

後撰雜二。たつちをたきま。さうらん

。後後撰。冬於。須法院。風さゆる夜。七の

衣の関。守ハぬ。ぬまの月や。さうらん

。新後古今志一。陸奥の衣の関。人志ハ

ぬ。相と。さうらん。は。陸奥国磐井郡

衣川。関。今。二。所。三。同。村。三。同。村。有。

。後後撰。於。遠。雜。上。二。所。三。同。村。有。

衣川

於遠志二。袂より。たきま。さうらん。陸奥の

衣川とて。云へり。さうらん。後後於遠雜上

。清原元帥。於。陸奥国磐井郡。衣川

。古今別於。越。越。三。国。の。地。名。昔。ハ。若。狭。よ

り。ハ。越。後。迄。惣。て。北。陸。道。の。国。を。越。と。云

琴ひき山

六帖山。出雲。凡。土。記。坂。石。郡。琴。引。山。

。又。六。護。伎。国。新。田。郡。琴。引。山。け。り。を

。後。於。遠。雜。五。河。波。国。こ。つ。か。と

の。浦。と。云。所。小。浪。の。ま。と。と。て

。こ。つ。か。と。の。浦。は。年。経。て。よ。も。浪。も。同。所。ハ

。海。を。た。り。り。り。り。阿。比。志。志。梅。養。の。也。吉。野。川。の

。海。小。入。所。小。木。津。村。を。け。所。を。木。津。上。浦。と。云

。地名。さ。ら。り。て。着。の。ま。さ。ふ。こ。つ。か。と。と。云。す

こつかとの浦

後於遠雜五。河波国こつかとの

の浦と云所小浪のまをとて

こつかとの浦は年経ても浪も同所ハ

海をたりにりりり阿比志志梅養の也吉野川の

海小入所小木津村をけ所を木津上浦と云

地名さらりて着のまさふこつかたと云す

相坂の関

古今離別。相坂の関一まき
あき関ありあきすりり

人をうめよ。文徳安祿九。相坂関出
入無禁。近江国志賀郡。関の清水同地

相坂の関の清水

六帖一貫之。夏衣たち
きよ物を相坂のせきの

清水のきくもるる。か。月人。お坂の
関の清水。小ひんえ。今や引之。月
の約。近江志賀郡。千我。後
成中。近坂の関。八人もなり。さ
け。八関。廢り

足からの関

後撰。後撰。あ。く。の。関。の。山
の。新。勅。撰。雜。四。同。

相模国足柄郡

天中川

新古今。復。於。定。家。久。方。の中。な
る。川。の。う。み。船。い。ふ。ち。き。り。て。や。き

ま。ま。の。ら。ん。の。西。行。法。師。も。天。あ。り。川。と。よ
う。ハ。天。中。川。と。い。ふ。を。深。く。天。中。川。の
と。と。す。未。考。の。遠。江。国。天。中。川。の。白。名。ハ
鹿。玉。川。廣。瀬。川。の。後。千。載。船。田。川。の。更
科。日。記。小。始。て。天。中。川。と。い。ふ。り

荒井の崎

續。後。撰。三。白。波。の。荒。井。の
崎。の。そ。の。お。れ。松。云。云。〇。百。葉。一

安。禮。乃。崎。〇。遠。江。国。淡。名。郡。荒。井。の
海。邊。白。須。賀。の。海。に。あ。る。

安豆麻治乃手兒乃欲妃左賀

万。葉。一
十四。五

未。考

阿治可麻能可家能湊

万。葉。十。四。廿。二。同。

阿治可麻能可家能湊

阿。屋。可。麻。能。可。多

〇。六。帖。船。あ。ち。か。ま。の。堤。津。と。い。て。漕。船。の。ま
〇。新。續。古。今。雜。上。お。家。さ。の。折。葉。折

淺羽の中

千。載。墨。本。滅。後。系。清。補。朝。臣。
を。か。り。る。賤。の。秩。も。か。い。ぬ。水。を

〇。万。葉。十。一。〇。淺。羽。の。中。之。遠。江。国。山。名。郡
淺。羽。傳。名。芥。一。名。白。羽。草。百。葉。廿
志。留。波。乃。伊。宗。ハ。遠。江。白。羽。乃。之。橋。原
郡。の。白。羽。小。あ。り。す。〇。武。藏。国。入。間。郡。淺
羽。同。名

安波津乃波良乃美久留須

鷹。子。曲

〇。後。撰。三。四。栗。津。の。杜。の。あ。り。す。と。も。ま。ま
〇。近。江。志。賀。郡。栗。津。山。城。宇。治。郡。栗。栖

栗津野

後。於。遠。春。上。栗。津。野。新。千。載。賀
大。細。言。篇。宗。建。長。元。年。屏。凡。画。を

栗。津。野。の。雪。小。あ。り。つ。ま。給。す
〇。近。江。国。志。賀。郡

朝日の里

金。葉。賀。於。曇。り。な。き。里。り
あ。り。ふ。近。江。あ。る。朝。日。の。里。ハ

光。さ。し。と。ふ。〇。玉。葉。賀。於。天。慶。九。年。大
嘗。會。修。紀。方。血。江。国。あ。り。な。る。朝。日
の。里。ハ。ふ。り。り。を。代。の。栗。へ。き。光。見。え。り
〇。傳。名。近。江。国。淺。井。郡。朝。日。安。佐

あふ曲うねの野

古。今。大。和。所。あ。ふ。と。り
あ。ふ。と。り。朝。立。く

ま。は。り。ぬ。の。中。ふ。田。を。そ。り。あ。け。ぬ
け。夜。ハ。〇。美。濃。国。賀。長。郡。阿。夫。志。那。神。社
〇。古。事。記。景。行。段。三。野。之。宇。泥。須。今。の。谷
粉。郡。鴨。沼。宿。等。の。う。ね。の。地。ハ。近。江。小。の
ふ。小。あ。り

秋の浦

新。千。載。秋。下。永。仁。八。年。詠。秋。浦。を
秋。の。ま。き。時。の。秋。の。風。〇。万。葉。七。帖

伊。予。明。美。浦。と。飽。浦。と。傳。り。秋。の。原。伊。予。不
初。の。浦。ハ

あつていつくかかけの湊成なるらん
未考。安を国味河津と云ふ

浅香の沼 古今志四、陸奥のあさりの沼の
花うつこころ。陸奥国安積郡

安積山 古序序の倭名陸奥国安積
阿加 万葉十六はあさり山、形さへ又ゆふこ

あふ隈 古今陸奥志。風俗を安武久未
〇六帖山、みちのくにあふま川のあ

あふ隈 〇六帖山、みちのくにあふま川のあ
あふ隈 〇六帖山、みちのくにあふま川のあ
あふ隈 〇六帖山、みちのくにあふま川のあ

阿福麻河伯神社

あ達う系 於遠志四、陸奥の豆達う系の
白真う。後後於遠志四、陸奥の

〇風俗を越方曲、阿太千乃、波良。古今

陸奥のあつちのまらり。〇後於遠志秋上、陸奥の

あつちの島 〇黒塚も豆達郡より

あつちの関 六帖国、出羽なるあつちの
関の清田川流てもえんを

會津山 六帖山
〇陸奥國會津郡

あぬえの松 伊物、栗原の姉の松。倭名陸奥
栗原郡、今もあぬえ村を、衣川邊

天の橋立 母後凡土記、與謝郡、郡家北
隅方、有連石里、此里之海、有

長大石前、長二千二百廿九丈、廣或

所、九丈以下或所、十丈以上廿丈以下、

先名天橋立、後名久志、淡然云者、国生
大神伊射奈藝命、天爲通行而橋立
作立、故云天橋立、神御寢坐間、伏

秋の湊 續後撰秋下、音よきくあきの湊
〇紀伊小光明浦、花文秋の浦同

梓山 六帖山、梓の山、曾丹集、梓山、美法の中
絶てより、家身小秋の末と知小き、好

〇千載後、能因法師津のむより、美法の
国、下るるもて梓山、よて、之本引梓の
山、かき分て、難波の浦と遠さうらぬ

〇續日本紀、大室二年三月、信濃国
獻梓弓。信濃と美濃国、境接、故今

梓山、美法、屬、梓、今俗弓の末と云

浅石山 古今俳諧志。〇六帖煙山、〇伊勢物
語。信濃国小縣、佐久郡、直

安子祢 万葉十四丁、七。〇前後上野のふ
大和吉野の青根と、美

阿自久麻夜末 万葉十四丁、五
未考

朝妻 新撰古今志四、卷系爲忠、朝妻、
よる、近江の朝妻小君もたまきこと

いふ、誠り。〇倭名近江国坂田郡朝妻、
流麻、併て、衣限の北と云

青墓 新撰古今志、堪覚法師、東より
より、る時、あふ墓と云所、宿る、

〇美濃国富井の東、青墓、今云青野系

あさむつ稿 催馬赤律曲、淺水。〇越前国
足羽郡、麻生津、今存

赤石浦 古今撰、後人不知、ふのくと赤
石の浦の朝妻、小嶋、これ、舟を

志を思、今昔和唐古本、墓のふのつ、出

味瀉の海 阿加、雜上、匡房、春、れ、味瀉
〇倭名播磨国明石郡明石、安加

を惜、れ、け、花を惜、む、を、後、

仍怪久志備坐故云久志備濱此中間
云久志自此東海去與謝海南海云河
蘇海の傍立の北筒川村小水江の浦嶋
子の宮所を以て傍立と通称す故
新古今雜中水の江のより中宮の宮祿さ
ひて數たりたる浦の松風と流り安
仲云より能野の字嗣て熊野宮と
謂れとも水の江と熊野と地理大小違
必定よりのちあり
○金葉雜中少式内侍大江山いくらの
道のをたれましまふも又天の傍立
○於於遠冬於於をふくゆあふの東
近いりふふと天の傍立の新於遠雜
中よごの浦入海けりて又後せ松原を
き天のよりたて

朔小あふの日本紀通證景行二年安永
國豊田郡味沼と云所小四月に鮎魚海の
ふふあふふ是を浮鮎と云と國人語
と云り

飽らの後 万葉十一〇同七紀の國の飽
等の後の志貝の新於遠
四同の續日九紀伊國弱浦改明光浦

あふの松原 風雅二顯季播らる
浦又そのをこりて大
よふ泊りぬあふの松原の傍名播ら國
諸戸郡英保郷を轉てあふと云り
○金葉雜中陸奥の思ひ思ひふふふ
らふふふらあふの松原を陸奥安永
の松原と云り

あき坂山

玉葉賀部貞應元年大嘗會
主基方御屏風備中國あき
坂山抄くればあき坂山をあらはし
あき坂山のお葉かき伍ん

安田

土佐日記正月廿日。田な河ハ誤
安永河ハ今も穴河村存。河波
の土佐泊より夜河波の水門を漕出沼嶋
を直て田安なうと云所を渡る。二月朝日
和泉の灘を漕出黒湯の松原箇の浦云
五日和泉の灘より小津の泊り石津住吉
は到云云。今の中嶋の地形をみる。粟
路の穴河村より阿波の大垣まで上代ハ
陸地つききりて南北の通路のため
小穴河の地より穴を堀ぬき其後土崩崩
落て迫門となりてふさま。長門國の
昔ハ穴門と云も通路の穴より云

新勅撰卷一
○紀伊國若の浦
阿波の女 古今雜下。紀敏定あはの女と云
粟湯が迫門 新後於遠旅於淡路方
せらるる風吹そひて
やうてあふの船人の迫門ハ淡
路の中嶋の西と云
阿波の水門 土佐日記正月廿日。今云中嶋
の水門ハ中嶋と土佐泊と云
あみの浦 新勅撰表下寛喜元年女御入内
屏風海邊あみ浦。浪風ものとか
なる代の春ふあひてあみの浦人たぐぬ日そ
あきのはる。紀伊國日高郡阿備の相原の
あみの浦を詠り。万葉一。網浦ハ網の浦と
誤。網の浦ハ讚岐國

あやの川

後於送冬祭。後系孝善。澄岐の綾川の千鳥を渡す。平野町。綾の河。平野千鳥を渡す。友の行方を尋ね。○万葉一讃岐国阿蘇郡。○倭名河野郡。

あらぬの池

後於送雅一。芳称好忠。川上やあらぬの池のうきぬまを。うきぬまあらぬやくる人もなり。未だ誤るべし。

青柳の村

折後古今賀祭。冬滋の長。信治三年大嘗會。悠紀方。唐凡。おま風ハ枝もなき。すす降。あてなひ。すの青柳の村。○ま理村。下花垣里の上。出。色江伊香印。楊柳。色。

あら船のみ社

於送物名。あらぬのや。ら。こきも。まも。皆み。り。なる。源。芥。ハ。あ。ら。ぬ。根。の。ま。や。白。く。又。ゆ。らん。○筑前宗形郡。沖つ。ゆ。ら。荒。船。社。を。船。形。の。大。岩。小。浪。打。か。く。

あまの山

後古今冬祭。後鳥羽院。片麦の。あまの山。ま。ま。ま。く。時。ぬ。り。る。山。り。か。る。村。雲。○ま。明。山。未。考。蓋。對。馬。嶋。の。ま。明。山。り。

佐保山

古今秋下。○佐保川。同地。○大和国添上郡。

さかぬ

古今墨滅。か。こ。せ。こ。う。く。へ。き。育。なり。笹。ぬ。の。雲。の。こ。の。允。恭。紀。佐。瑳。鐵。泥。後。世。さ。か。に。と。誤。蜘蛛。の。こ。い。あ。ら。す。○大和国宇陀郡。篠。幡。山。也。

嵯峨池

後古今秋上。場。松。尾。行。幸。の。時。小。出。○同。釈。教。寂。蓮。清。涼。寺。也。後。嵯。峨。の。お。小。る。明。の。月。○同。太。上。天皇。後。嵯。峨。の。秋。の。女。而。花。○山城国。葛。野。郡。

沢田川

催馬示律。沢田川。袖。付。汁。淺。き。を。や。久。仁。乃。宮。人。高。橋。渡。す。○山城国。相。示。郡。久。仁。京。の。川。と。す。け。方。の。沢。田。川。本。方。なり。遠。江。国。高。御。所。村。小。沢。田。川。を。高。橋。も。遠。江。又。山城。小。沢。田。川。四。十。四。

坂板田の橋

千我釈教。朽。た。て。く。あ。や。く。又。え。志。を。壘。田。の。坂。田。の。橋。も。今。渡。す。○万葉十一。小。壘。田。の。坂。田。の。橋。○大和国。高。市。郡。○千。我。今。本。坂。田。小。誤。

猿沢の池

六帖池。○於。送。哀。傷。ま。き。も。こ。り。ぬ。く。た。ら。髪。を。猿。沢。の。池。の。玉。も。と。足。る。を。悲。し。き。○大和国。春日。小。猿。沢。池。を。出。所。未。考。

の郷名也。案小天武紀二年於廣瀬河曲。万葉七册。廣瀬川袖衝津淺字也。
○式大和國廣瀬川也。廣瀬を沢田として催馬赤小入たる。後の名は廣瀬田川と
語り。新勅撰復於。日月の比もへぬ。凡ハ沢田川袖衝津淺き世なり。○新後撰賀
於。延喜の時時。新撰。沢田川。白糸の返。君打たて。前代や伊人。○新後
於。送冬。於。若原長秀。沢田川袖衝津の浪もなり。氷も流す。真木の佐橋。○同雜
上。淺き。流ハ流も行へき。沢田川。真木の佐橋。何れもす。す。人。

桜木

玉葉實於。周防内侍。桜木と云。所小住ける人のもと。○案。小住。桜木。こを
ゆ。一。凡。春。の。か。こ。小。花。や。流。る。と。○於。云。山城。万里。小路。東南。庭。多。桜。木。故。名。

桜町

佐山

新古今秋下。喜多。藤の立。こ
を。乃。ぬ。凡。ハ。山。り。す。と。小。秋。凡。を。吹
○河内。国。丹。比。郡。界。桜。津。住。吉。郡。り。て
狭。山。郷。を。

坂本の山莊

於。送。雜。上。中。納。言。敦。忠。西。坂。本
の。山。莊。の。流。を。伊。勢。喜。羽。川
と。き。入。て。流。す。流。つ。せ。よ。人。の。見。え。も。す。る。

か。ま。の。西。坂。本。山。城。か。へ。

さ和多里

万葉十四册一
諸國同名多し

さひ江

後撰雜上。津の國の名所を繪ふ
と。さ。ひ。江。と。云。所。を。忠。峯。年。を
流。す。流。り。た。せ。ぬ。さ。ひ。江。小。玉。も。か
つ。り。て。今。を。す。む。へ。さ。の。案。小。さ。ひ。江
堰。を。云。姓。氏。派。坂。合。於。是。住。吉。界。町
の。入。江。か。へ。

佐やの中山

古今意二。東海のさやの中山。中山は
の。り。う。人。を。思。ひ。と。め。ん。○古。今
東。海。の。風。俗。を。甲。斐。曲。加。比。可。祢。乎。佐。也。尔
毛。美。之。加。カ。カ。礼。難。久。白。古。保。利。太。天。流。
佐。也。乃。奈。加。也。末。○六。帖。六。上。枝。折。東。海。の
さ。や。の。中。山。云。云。續。於。送。雜。秋。二。首
○遠。江。國。佐。夜。郡。駈。路。の。山。今。人。さ。よ。の。中。山。と。云

佐野の船橋

後撰意二。源等相を東海の佐
野の船橋。船橋。船。橋。か。け。て。の。こ。思。ひ。は。る。と
知。人。の。ち。き。○佐。古。今。復。於。佐。野。の。船。橋。○万。葉
十四。上。野。の。佐。野。今。下。野。小。豆。利。小。道。一
○新。撰。古。今。雜。上。信。都。竟。尋。船。よ。と。ふ
佐。野。の。浦。浪。遙。々。と。月。も。夜。夜。の。渡。の
佐。橋。は。右。上。野。紀。伊。等。の。佐。野。小。石。谷
○新。撰。古。今。雜。上。信。都。竟。尋。船。よ。と。ふ
佐。野。の。浦。浪。遙。々。と。月。も。夜。夜。の。渡。の
佐。橋。は。右。上。野。紀。伊。等。の。佐。野。小。石。谷

さこのみ湯

於。送。物。名。サ。コ。ノ。ミ。ユ。あ。う。す
を。別。り。人。の。住。里。ハ。さ。ハ
大。の。見。ゆ。の。山。の。あ。ち。う。う。

○陸。奥。ま。る。と。云。未。考。

文科

古今雜上。○六帖。さ。の。川
信。濃。國。更。科。郡

佐野の邑

新後於送冬。於。○万葉十四。さ。な
つ。り。の。邑。○上。野。國。佐。野。さ。の。船。橋
も。同。地。

佐野の佐橋

後於送雜一。ふ。と。見。て。も。物。思。ふ
さ。と。そ。ち。う。り。ふ。さ。る。さ。の。佐。野。の。佐。橋
と。絶。の。り。て。○万。葉。十。四。册。上。野。の。佐。野。の
布。衣。波。之。り。を。た。よ。と。○佐。野。今。下。野。小。豆。利

さやの渡

新古今於。定家。百。その。奉。り。時。駒。止。めて。袖。打。拂。ふ。好。も。なり。佐。野。の。渡。り。の
言。の。夕。暮。ば。な。何。れ。の。さ。の。佐。野。の。渡。り。を。思。ひ。と。め。る。ふ。と。あ。ら。す。○万。葉。三。み。よ。あ

修さやの海り、紀伊玉籠野のこゝ修佐也
の海辺の海り、定家等の名は地よふ合

坂井の村 玉兼賀於中納言匡房、美保元
年大常會主基方さか井の村。

八隅一、吾すへらきのみよこそとさう井
の村の水もすこりり。倭名越前国坂井郡
○式座摩祝詞、榮井、坂名井神社同

さやか山 後於遠旅於右大舟通後、筑
紫よりよりなるたふさやかた

山と云ふとて、あまの吹迫戸の塩ひ
小船出しておくをさやか山を

○或云筑前国宗形郡さやか山

椋嶋 於遠雜下、大隅守椋嶋の忠信云
○大隅と薩戸の海中小椋嶋を

薩戸が 千我孫於平康頼、薩戸縣沖の
小嶋小島を親小告よ八重

の塩風

きさぶらの山

万葉十二世、舊衣着橋の山
○玉兼孫於たひ衣きさぶらの

山名のりして程うら麻一秋の文を

○大和国添上郡奈良坂を云

清瀧 古今雜上、清瀧の流々の白糸を
○玉兼雜三、高雄山清瀧川を底ふて

谷かけゆるおの下の山城国葛野郡高雄
山の清瀧川を、千我孫於清瀧、醍醐の

清瀧の社小合、信と云ふ山城宇治郡
醍醐の地の清瀧

桐原牧 六帖下、於遠秋貫之、
○信濃国筑前郡桐原牧、式殖原小謀

きりふの岳 於遠賀於清原元輔、きり
ふの岳ふき雉子のとてり

○上野国桐生郷、未考

木船川 後於遠神祇於、き船小清、千我孫祇
木船川。後千我孫二

○式山城国愛宕郡貴布祢神社

北野宮 後撰雜二、延喜御時北野行幸。續
後撰神祇、定家、山城の北野

清見関 更耕日記。新古今集於
○万葉三、駿河国清見崎

岐曾の御坂 續後撰卷二、信濃國也木曾の
坂。續日二、美濃國之

木曾の麻衣 新勅雜四、寂連。大木曾小本
曾郷を昔、美法、今、信濃、

木曾の杉 千我孫四、同雜下、排杉、おそらや
木曾の杉、おの丸木、杉ふとる

たひ小杉、ぬへさうを、今、又、信濃、不
筑前郡上松宿と福嶋宿の杉、小杉、
を、此地と、真木、杉、小本、と云

又三輪山 古今春下
大和国城上郡

三笠山 古今猿丸
大和添上郡春日

又垣の系 六帖二山、うねり山、みきり系、績後
於送春上、俊成、又吉野の垣、系

○海花春、天徳四年、平兼盛、なほ春めき
小、りみ吉野の垣、系、なほしめたり。績
後、於送春上、定家、なほつむみ垣、系の
梅の花とも、後、り。惣て、宮所の垣、と云

みかの系 古今猿丸、都出て、ふみ、の系、つ、川
○山城国相承郡の行宮所

みなせ川 古今三、言、出、て、い、ま、ぬ、牙、を、水、先、せ、川
○同、五、み、ま、せ、川、を、行、水、た、り、と、云

○三寶、水生川。新、後、於、送、雜、秋、み、ま、せ、山
○山城国訓郡山崎、南、水生

みくし 後、撰、雜、二、批、把、左、大、臣、延、喜、の、也
時、北、野、の、行、幸、み、く、し、也、と、云

みくし、世、い、く、その、世、を、年、を、て、り、ふ、の、也
幸、を、侍、て、了、つ、ん、○山城国葛野郡北野、西
南、紙、屋、川、の、西、岸、道、の、北

御津の御牧 後、於、送、復、於、さ、り、と、さ、り、水、ハ
み、つ、の、御、牧、の、真、菰、草、前、り、す

ひ、ま、も、あ、り、と、思、ふ、○績、日、七、元、正、始、嶋、
牧、是、こ、○松、津、国、御、津、前、三、津、村、三、津、濱
と、云、又、案、式、山、城、国、紀、伊、郡、美、豆、御、牧、と

三嶋江の玉江 於、送、春、五、の、う、に、も、あ、り、と、云
ま、の、火、の、あ、く、と、や、ん、の、か、つ、川

も、せ、ぬ、○松、津、国、嶋、上、郡、茨、川、宿、存、三、嶋、郡
嶋、上、嶋、下、と、云、玉、江、も、こ、地、ま、と、云

み吉野の大河 古今三、四、み吉野の大河のへの
後、浪、の、こ、○大、和、国、吉、野、郡

耳たし山 古今俳諧、耳たし山のこち、と、云
○大、和、国、十、市、郡

宮跡 績、於、送、雜、上、宮、跡、の、た、き、の、水、上、る、ん
古、き、水、幸、の、跡、や、残、り、と、云、新、勅、猿、丸、亭

子、院、宮、跡、の、跡、ふ、お、り、ま、り、と、云、時、御
供、小、は、奉、り、て、日、々、と、云、云、と、云、を、後、侍、る、
大、和、言、○大、和、国、吉、野、郡、の、宮、跡

水分山 績、後、於、送、春、下、松、咲、み、ま、り、山、小
風、ふ、け、六、田、の、院、小、ま、り、と、云

○新、後、撰、叙、教、水、分、と、云、云、式、大、和、国
吉、野、郡、水、分、神、社

美豆野 日本、後、紀、山、城、葛、野、瑞、野、○千、載
是、四、頼、政、山、城、の、瑞、野、の、里、小、妹、を

を、て、い、く、た、い、院、の、船、ま、り、と、云、○新、千、載
俳、諧、云、西、行、法、師、山、の、み、豆、野、と、云
○玉、葉、猿、丸、後、成、女、船、ま、り、と、云、美、豆、の、御、牧、の
ま、こ、も、あ、り、と、云、り、ぬ、の、松、と、云

みつの木 後、撰、意、六、院、よ、り、と、云、み、つ、の、木、と、云
○山、城、久、世、郡、未、考

みの面 後、於、送、雜、四、馬、内、侍、り、り、と、云、この、お、の
浦、の、う、つ、せ、貝、○松、津、国、豊、嶋、郡、小、箕

湊川 子、載、秋、下、夜、泊、鹿、湊、川、津、ぬ、の、床、り
ゆ、ゆ、と、生、田、の、真、の、さ、と、云、と、云、○新、勅

秋、下、風、雅、復、於、須、德、院、○松、津、国、共、庫

三嶋野 績、於、送、秋、下、三、嶋、野、の、あ、さ、ら、上、葉、秋、風、小
色、付、ぬ、と、云、り、と、云、○松、津、三、嶋、郡

湊田

催馬亦曲。みなと田。小鶴やつとり。新後。於送雅秋。湊田の稻葉小凡の草。一より。八月。秋の浦風の末考。

水の尾山

三寶元慶四年。清和天皇。入丹波国。水尾山。云々。奉置御殿於水尾山。伊勢物語。水尾の御時。云々。清和天皇の御代。云々。同日廿二。光の同廿八。延暦四年。行幸水尾岡。光の山城葛野郡。山城丹波。二国。水尾山。

三保の浦

風雅秋中。後鳥羽院。清見。写富士。の煙や消ぬらん。月乃みくみ。傳の浦浪。〇万景三。見穂乃浦。新法古今。美保の奥津。駿河国。有度郡。三保。伊津。后撰。云々。君。あ。り。雲井。小。宮。山。折。紙。う。ん。及。も。あ。り。玉。景。冬。の。若。系。の。孝。標。女。あ。り。上。と。て。

宮山

二河必宮山。十月晦日。嵐を吹。し。さ。う。れ。宮。山。ま。い。り。葉。の。ち。ら。て。街。の。秋。送。神。糸。石。上。ふ。や。遠。止。古。乃。太。刀。も。か。ち。ま。の。猪。あ。り。宮。通。の。催。馬。亦。貫。川。曲。日。光。の。宮。山。も。定。了。

又芳野の里

六帖。み吉野の田面の。伊物。東下。小武藏国。入間郡。三芳野の。里。云々。

三井寺

續於送雅秋。三井寺。月。の。秋。風。か。さ。り。波。遠。く。出。る。月。の。近。江。志。賀。郡。松。立。て。造。り。重。よ。ち。代。の。た。も。くら。

みどの中山

〇万景七。六帖山。〇近江高嶋郡水穂。水尾岡。ち。ま。い。り。山。も。日。比。

み流り

玉葉。増基法師。伊勢国。行。上。る。ふ。て。潮。の。千。ふ。み。り。と。云。流。を。と。し。三。河。伊。勢。国。志。賀。郡。の。伊。勢。小。津。村。三。流。り。相。併。

宮川

新古今神祇定家。宮川の。ゆ。ふ。あ。つ。ら。ち。き。代。ま。て。も。か。け。て。程。ま。ん。〇。後。於。送。神。祇。後。鳥。羽。院。朝。ふ。あ。や。く。ん。を。程。て。ら。を。浪。も。伊。勢。小。津。村。の。月。次。の。川。〇。伊。勢。国。度。會。郡。宮。川。

みもすそ川

續古今賀於。神凡やみもすそ川。の。流。こ。し。三。河。伊。勢。度。會。郡。

三河国八橋

古今。安嘉門院四條。三河。小。八。橋。と。通。り。て。さ。り。か。に。の。こ。も。て。あ。や。う。き。八。橋。と。夕。香。か。て。流。り。あ。や。う。き。〇。三。河。国。碧。海。郡。正。和。の。次。も。八。橋。の。地。古。馬。路。と。り。え。

みの浦

續於送雅上。捨やらぬ。後。於。送。雅。上。捨。や。ら。ぬ。か。の。浦。の。う。つ。せ。貝。や。う。き。世。と。思。ふ。物。う。ら。〇。後。於。送。雅。四。の。の。の。浦。も。い。り。き。

またの川

六帖。後撰。三陽成院。筑波根。の。峯。より。流。る。み。た。の。川。〇。常。陸。国。鹿。嶋。郡。中。美。乃。和。田。と。常。陸。国。筑。波。山。下。の。流。入。川。上。を。桜。川。と。云。

宮嶋

古今。伊勢物語。末考。古。今。里。末。減。小。町。お。き。の。宮。古。嶋。〇。伊。勢。物。語。〇。末。考。

みむら山

新古今賀於。寛治元年。修紀。方。近。江。国。み。む。ら。の。山。〇。末。考。六。帖。山。〇。万。景。七。十五。さ。り。波。の。連。倉。山。〇。近。江。高。嶋。郡。水。尾。の。中。山。同。地。

美濃国関の坂川

古今。大。所。所。美。濃。不。破。郡。関。の。坂。川。〇。一。り。羊。坂。川。宿。を。坂。川。越。と。云。近。江。の。長。渡。と。通。

美濃のお山

六帖山、お急いみのれお山一つ松
賢り〜ん今もとすれす

美濃の中山

狭古今五四定家、の狭於送難四
不破の國屋小書付てはるるがぶ

都といをちとこと汁ゆらうてん紙かぬる

みのれ中山の美濃のお山、美濃の中山、不破

郡垂井宿、南宮の山と云加、後即大山津社武

美多郡大山郷おれも是ふおあ〜

みかみの崎

新子我旅、蓮生法師、石ふま
ぬあその川系小行をてみり

かの湯ふらやまらん、あその川、万景

十四下野国也、是よ依小みりみりもを

誤り又上野国いかなとあらう

み草山

凡雅旅、於菅氏、み草山と通りて
大倉谷と云ふよ出て赤名浦と詠

二丹波国三草山と越て播磨の赤名よ出

御射山

玉兼羅一金刺盛久、尾花ぶく徳屋の
ゆりのの二むふ志と〜里ある秋の御

射山の信濃記曰諏訪郡御射山神戶を其

東方八ヶ嶽の極麗の系と穂屋野と云穂屋

諏訪神事の御獵小七月廿六日御射山

獵を玉兼以後、穂屋も地名とをり

陸奥の信夫

古今五四、陸奥信夫郡今篇
伊達郡

陸奥の安達

古今大分所、陸奥安
達郡、古書无安達

陸奥のふの細布

六帖布、陸奥のふの細布の
かとせとをいぬあひか

きまもするのなよ、陸奥国南於領狭布里

錦木川古風俗、今先

宮城野

古今五四
陸奥宮城郡

水の江の吉野の宮

新古今雜中、正三位季能、十五百番か合を、水のえのより、也の宮、ハ、津
さひて、穀たけし、浦の松凡、のけお、ハ、水の江の浦とかりて、丹後国興

謝郡浦嶋の宮所と云、丹後風土記、興謝郡筒川嶋子傳曰、水江浦嶋子者也、
是ハ、仁賢天皇、顯宗天皇、二柱御子の時、丹後国小か、此座し、ると伊豫、於の馬、美、る

凡、老、記、せり、地、お、れ、ハ、う、の、宮、と、云、ん、契、沖、ハ、熊、野、字、願、で、能、野、と、成、り、と、云、ん、此、也

熊野宮所と水の江と、地、地、隔、越、て、る、合

美作久米の四山

古今大分所、催馬、亦、の
凡、上、記、久、米、郡、さ、ら、山、村、也

三方の系

六帖系、の、若、狭、国、三、方、郡、美、加

みの山

催馬、亦、呂、美、山、美、乃、也、万、尔、之、々、尔
於、比、太、留、玉、擲、の、六、帖、国、黒、主、み、の

山、小、後、り、深、ゆる、玉、か、〜、豊、の、明、小、あ、ら、う

た、の、〜、の、美、山、ハ、意、神、紀、備、前、の、野、郡

三、野、縣、の、美、山、よ、上、道、郡、国、府、の、西、方

古、駅、路、よ、る、と

水莖の罟

古今大分所、六帖、下、の、万、景、六、
水、莖、之、水、城、の、筑、前、国、遠、賀、郡

よ、り、太、宰、府、の、入、口、に、水、城、の、堤、存

立入り又や隔てん今月まふもどけぬ
下坂のえの下細のけぬを云**非地名**

白つき山

新和志西の中心たる白月山。
石原の田上山を誤る。白月山と云

後崗

百景六十八
未考

嶋熊山

百景十二
丁九 玉勝間嶋熊山
未考

志々せ山

六帖くま
无所見

白濱

六帖国。但馬なる雪の白濱。
但馬小城崎平気多川系ニリ丹後岨迄云

ひ

古今大分所。さひのくまひの隈川
大和国高市郡。倭名檜前。久未

日置野

古今志四。梓弓ひきのせつら未
つひひふふ人小言の志けらん
畿内所々ひきの野も。契沖云河内

ひえの山

古今春下。後後撰神祇。大ひえや
ひえの山。山城と近江界

廣沢

後於送秋上。廣沢の月とる。新和
雜一。新子我雜中。頼政。遍照寺
よて月とる。月のとる。廣沢のいけ。
山城国葛野郡。廣沢の庄

日の岨

新和於送雜下
山城宇治郡。木幡岨

東山

松送春。秋。秋。
山城愛宕郡中。北山。東山。

日吉

新和撰於。亭子院。云。日吉
日吉。中と云。云。大納言昇
日吉。云。大和吉中郡

日吉の山

後撰撰於。若原右大臣。日吉の
山をまうり。日吉の山

平野

松送智。式。平野。奈神社
山城葛野郡

廣田社

新和神祇。神功紀。延喜式
倭名。松津。武庫郡。廣田。比呂

日吉社

後於送神祇。後三。院。御時。始。日吉
社。小。行。幸。式。直。江。志。賀。郡。日吉。神社

飛駝工

六帖国。財。役。令。斐。陀。国。每。里。
點。通。丁。

常陸帯

新古今意一、東海の道のたてなる常陸帯のかととも思ふ。古別記
○風俗の○新後古今別記、佐藤朝長、なると常陸より公家、なるとかく別記
そのと、常陸のるか、まの帯のうらりき

常陸なる浅りの浦

六帖国、万十に十一、廿一、廿二
未考

常陸なる小野の御牧

新千載雜下、大納言朝光
左近の犬のの時常陸の

小野の御牧より草奉るをて

○傍名常陸国信太郡小野

比多我多

万葉十四、廿四、比多我多乃伊蘇乃
和可采云 未考

引馬野

金景春記、匡房、春書、まきとせとも
姫小引馬のせ、不取、まよひり

○万葉二、ひくま野、不取、まよひり
○遠に国敷智那、史記、今云三方系

平の高根

新後古今春下、源頼政、近江路や
真地の浅く、約とめてひらの

ふねの花をえる、○近江志賀郡平山

引津の御

万葉十五、引津の亭、後松送
意三、梓引の御つら、○新勅

意四、後前国志麻郡引津亭

秋

もろる山

古今秋下、貫之、白も時雨もいたく
もろる山、○新古今、賀茂、永承元年

大嘗會、悠紀方、屏風、近江国もろる山を後ふ

もろる山と常盤山、もろる山の火をりし

山つら、もろる山、もろる山を誤り、近江野洲郡

守山宿存

もろ上川

古今陸奥、出羽国最上郡最上川

も司の関

金景春上、藤原、意す、文日の
関守、安成、我、きつら、心、を、小

○新勅、雜四、後千載、振、於、門司の、関守

○豊前国、企救郡、門司小倉、柳浦、大裏、併

諸神郷

千載神祇、元暦元年、大嘗會、近江
国諸神郷を、もろる山の、今、今、を、叶

ら、君を、やら、よ、い、の、も、ろ、る、山、未考

を月の御

於遠秋部、貫之、相坂の、雲の、清水、
かけ、え、て、今、や、引、ら、を、月、の、御

○後松送、秋上、八月、御、む、之、良、羅、法師、相坂の

雲の、秋、引、時、は、あ、つ、ふ、見、ゆる、を、月、の、こ、ま

○か、ふ、ら、大、駈、の、不、洋、○同、惠、茶、法、師、を、月、の

御、引、時、は、ね、坂、の、木、の、下、や、も、見、く、す、と、み、け、る

○式、馭、馬、信、濃、国、佐、久、郡、望、月

もろるの山

六帖山 未考

世

世行川

後撰雜一、行平、嵯峨の山幸絶小、行平の千代の古道に、まろり、六帖及日本後紀山城嵯峨、
○續古今其於、けさたふも、世とあて、れ、行平や竹田の早苗、皆をより、○けさの村、
伏見竹田行川村併、竹田里、山城紀伊郡伏見郷、て、伏見の竹田渡、多羽と、再、○竹田行平、**末多**

瀬見の小川

後古今賀於、鎌倉右大臣、石川やせこの小川、○山城風土記、玉依日賣於石川、
瀬見小川、遊爲時、云、○同風土記、加茂建爾見命、見加茂川而言、雖狭小、

石川清川在、仍名曰石川瀬見小川、今、
瀬見小川、遊爲時、云、○同風土記、加茂建爾見命、見加茂川而言、雖狭小、

関戸の院

於送別於、平兼盛、源の公負、大隅、
関戸の院、退、小関戸の院、て、月のあかり、

けふ別楷む、云、○山城乙訓郡山崎小関戸院、
な昔ハ関戸宿と云、

関寺

後撰雜二、敏行朝臣、近江の関寺、小こもり、
はる、云、○相坂山の関寺、

関の谷川

古今神本、美濃国関の谷川、絶す、
て、春つらん、若代まで、小、後於、

送難上、若系、爲、兼朝長、仕、世、の流、を思ふ、
も、家、身、小、た、の、心、関の谷川、○美濃不破郡、
関ヶ原より、岐路、を、て、後川宿、を、経、て、近江の、
長江、よ、出、る、乃、次、

すま系や伏見の里

古今雜下、○後撰卷六、す、
り、や、ゆ、え、の、里、の、荒、り、り、

通、り、の、た、も、絶、ふ、き、○天和流下郡菅原、
○後日七、延暦元年五月、土師宿禰、古人、前、年、

因居地、名、改、姓、菅原、是、遠江の蒲の、小、
標、と、り、り、

菅原寺

新於遠、釈教

住吉の細江のみとつ

河花雜上、相換

住吉の細江、さ、せ、り、

み、と、つ、く、一、ゆ、き、ふ、は、ま、ぬ、人、い、あ、り、り、り、

○新古今雜下、後撰朝臣、若、を、て、世、小、住、
の、江、の、み、と、つ、く、一、つ、と、侍、も、な、ま、さ、な、り、り、

○河花復於、堀江の、み、と、つ、く、一、も、あ、り、り、

○後撰卷五、元良親王、よ、い、ぬ、れ、ハ、今、も、思、
同、な、み、ん、ち、あ、る、み、と、つ、く、一、も、あ、ん、と、思、

○三代、皇、孫、清和天皇朝、難波津頭海中、
始、立、標、標、○延喜雜式、凡、難波津頭海、

中、立、標、標、若、有、舊、朽、折、者、搜、求、技、去、
○万葉十四、遠江国引佐郡細江之、標、

標、と、難波、御津、ナ、レ、ハ、各、事、

住の江の土遠里小野

新於春上、
○難波住吉

新於振於、存宮群行鈴鹿の、
振宮、と、し、云、○伊勢鈴鹿郡、

角田川

古今振於、武藏と下総、堀角田川、
○六帖国、出羽なる、青、の、字、の、清田川、と、

す急押の系

新於卷四、○万葉廿、○六帖将、
○倭名上総国周淮郡、

末の松山

古今序、松山の浪をけの東を流
君をたてあつてあつてあつてもたん

末の松山波もあえらるん。風俗を須恵乃末
門也末。陸奥、今仙臺の東海、末松玉川併

須磨浦

古今志四、同雜下、行平をすまふ流す
。松津国八田郡すま

須戸の溪

六帖書符、すまの溪、秋之秋志のとき
約をたて、書符をたふせてや別ん

。金葉冬記、源兼昌、天治三年、詠関路千
鳥、浪路通ふ千の鳴る、いふよ、いふよ
。須戸の溪、守の續、古今、旅、行平、旅人、
杖、涼く、ぬより、関、吹、し、ゆ、須戸の浦、風

須磨の上野

新千載、旅、終、。松津八田郡、
上野、須磨、寺、の、地、を、い、れ、と、も
つけ、地、を、上、せ、と、も、云、ら、る、。中、古、八、播、八、小、属、ら

。千載、雜、二、播、八、縣、す、ま、の、れ、ま、ふ、ん、
。海、せ、八、浪、ハ、雲、ろ、の、お、ふ、を、も、り、の、同、播、八、
。か、須、戸、の、月、よ、も、さ、さ、と、な、て、え、る、海、津、ふ、
。こ、も、り、の、よ、ろ、り、と、も、後、り、

菅田の池

千載志四、志をのこすこの池よ
水草をてすまてやん各こそ

惜るん。續日廿四及倭名、美濃国、武藝郡
菅田駅、又常陸国、河内郡、菅田郷もも

洲の股

後於遠、旅、終、能、因、法、師、洲、の、股、と、云
所より信濃の御坂を又りて云

。式大和国、添下郡、菅田神社もあり

すこの入江

後古今冬記、後於遠志二、
常磐井入道、弘長元年、百、
不逢志、風あきすこの入江は浪こえて
あしきなきまてぬる袖うな

。或云、松津八田郡、須磨のうらへ、
。五葉十一、十四、よ、出、る、八、紀、伊、国、各、中、郡、
。倭名、備前国、赤坂郡、周匝もも

吹田温泉

玉葉志一、大納言、旅人、吹田の
温泉をて、霧のつとまて、
ゆの系、吹田、たら、八、系、ぬ、く、い、も、ま、り、也、
。時、こ、ら、は、ま、く、。万葉六、
。倭名、筑前国、御笠郡、次田、吹、
。誤、次、

。時、こ、ら、は、ま、く、。万葉六、
。倭名、筑前国、御笠郡、次田、吹、
。誤、次、



文化元甲子年十二月終

遠江
真多都撰

